

# 2019年度鳴門市人権地域フォーラム

## テーマ 「差別・被差別を超える人権教育」

～板野中学校の同和教育が培ってきたもの～

■と き 2019年8月2日(金)13:30～16:30

■ところ 鳴門うずしお会館

コーディネーター A (松茂町立松茂中学校教諭)

パネリスト B (板野中学校1996年度卒業生)

C (板野中学校1996年度卒業生)

D (板野中学校1996年度卒業生)

### 《司会者》

お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから2019年度人権地域フォーラムを開催させていただきます。初めに、資料の確認をさせていただきます。レジュメの資料が一部、アンケートが一部、チラシ等をお配りしております。資料のない方はいらっしゃいませんか？また、本日手話通訳を「特定非営利活動法人 あたたかい手コラボ」の皆さんにお願いしております。よろしくお願いいたします。(拍手)

なお、本日のフォーラムは閉会を16:30とさせていただきますので、アンケートにつきましては、お帰りの際に受付のアンケート回収箱に入れていただきますよう、ご協力よろしくお願いいたします。

それでは、本日の人権地域フォーラムにお招きいたしました講師の方々をご紹介させていただきます。恐れ入りますが、講師の皆様は、お名前をお呼びいたしますので、順次壇上の席へご移動お願いいたします。初めに本日のフォーラムのコーディネーターを務めていただきます、松茂中学校のAさんです。(拍手の中ゆっくりと壇上に進む。その後もパネリストが、呼ばれるたびに拍手の中、順次壇上に進む)続きまして、パネリストの方々を紹介させていただきます。鳴門金時農業経営者のBさんです。会社員のCさんです。板野中学校のDさんです。

それでは、Aさん、以後の進行につきましてはよろしくお願いいたします。

### 《コーディネーター A》

(元気よく)皆さん、こんにちは。(会場からこんにちはと大きな声が返る中、ニコニコと)2015年に、板野中学校で1990年に始まった全体学習取り組みを、広島大学の名誉教授である原田彰先生が、『差別・被差別を超える人権教育』～同和教育の授業実践記録を読み解く～という本にまとめていただきました。これは、1990年と1991年の当時の板野中学校の2年間の部落問題学習の記録を解説していただいた本です。

この本がきっかけになりまして、1991年に中学3年生だった当時の生徒の中心(リーダー)であった3人が、2016年のこのフォーラムで思いを語ってくれました。それは、本当に切ない語りがあったんですね。私は、教師になって38年になります。板野中学校に赴任するまでは、クラス子どもたち全体に、自分のことを部落出身であることを含め、自分をさらけ出して語ることはなかったんですね。

新任が藍住中学校でした。当時文部省の同和教育研究指定を受けたことがあって、本当に同和教育を必死でやったんですけど、当時の藍住中学校の子どもたちと今もずっとつながりがあるんですが、中学生の時によく私にこう言いました。「何で、先生はそんなに同和教育を一生懸命やるんですか？何でそんなに命をかけるように必死にやってくれるんですか？」そのときに、私は、当時の子どもたちに(身振り手振りを加えながら)「実はこれは俺のこと(自分が部落出身者)なんや。先生自身のことなんや。先生自身が、部落差別に関わって切ない思いをしてきたんや」ということを、よお言わなかったんです。

そのクラスに地区の子もいたことで、その地区の子には、自分のこと(部落出身者であること)を話をするんですが、クラス全体には言えませんでした。全体で話をしたら、その地区出身の子はもっと頑張れたと思うんです。今も藍住中学校の当時の子どもたちとつながりがあって、よくその話はするんです。

でも、1990年に板野中学校に赴任したときに、揺れる子どもたち…。2016年のこのフォーラムで語ってくれた3人の中のK子の語りは、今も心に残っているし、彼女の中学時代の姿も語りも、ずっと残っているんです。

2016年のフォーラムで、彼女はこんな話をしてくれました。

**「友だちの家に行ったときに、玄関先で友だちを待っていた。友だちのおばあちゃんが、その友だちに対して、私が玄関先で待っているということを知っていないから、友だちもわかっていないから、家の中でそのおばあちゃんが友だちに言った。(なんと言ったか)『Kちゃんは部落の子やから、あんまり遊んだらあかんよ。』私は、友だちがおばあちゃんにちゃんと言い返してくれると思った。じっと待った。その友だちがおばあちゃんに言った言葉が、『おばあちゃん、わかるとるけん。』その言葉を私は聞かなかったふりをした。」**

その日、その後でその子と遊ぶんですが、そういう体験を、この場で赤裸々に語ってくれました。その後、高校、大学、そして社会に出て体験したことを語ってくれました。皆さん、私は、このフォーラムに関わらせていただいて、17年になります。パネリストの一人ひとりの体験を語ってくれることで、フロアから、それまで誰にも語らなかったことを必死に語ってくれる。そういう子どもに出会ってきました。

「ひとつごと」から「わがこと」へ(というテーマを掲げていますが)、なかなか自分の問題にならんし、立場が違ったら、なかなかそれを自分に引き寄せていくことができません。でも、学び続けていくことによって、私たちの価値観は変わっていくと思います。差別をなくしていく誇りやよろこびというのは、私たち自身のものになっていくと思います。

今回パネリストは、3人の同級生、1994年に板野中学校に入学してくれた子どもたちです。1990年に始まった全体学習が小学校に波及して、小学校の取り組みが変わってきたんです。3つの小学校から板野中学校に入学してくるんですけど、小学校の段階で部落出身という立場を学び、仲間づくりをして取り組んできました。

中学1年のときに、B君とC君は、私が担任しているんですけど、中学1年の家庭訪問で私が部落問題を語るんです。私のことを語るんです。そこから家族の中で部落問題を語り合う、立場を語り合う、自分のことを語り合うということが始まっていきます。板野中学校は、5クラスありますから、年間に5回の全体学習があり、3年間で15回の全体学習が実践されます。その15回の全体学習が、指導案を含めてすべて記録に残ります。

一番最初に実施した1年生の1回目の全体学習は、小学校6年の担任が参観に来ました。小学校の先生方に呼びかけたら来てくれたんです。その当時の小学校の取り組みは、中学校にとっても大きな力となっています。その全体学習は私が展開したんですけど、(真っ直ぐに手を挙げる仕草をしながら)私の語りかけや問いかけに、スッと真っ直ぐに手が挙がるんです。30人、40人の手が挙がるんです。手の「林」のようなんです。次から次へ自分のことを語っていくんです。

一人の女の子が後半に、参観に来てくれた小学校6年生のときの担任の先生に対して、こういう語りをしました。

「私は、今まで高井先生や上田先生よりすごい先生に会ったことがありません。」

185名の生徒が集まっている体育館なんです。そして、その中でこう続けます。

「その高井先生や上田先生よりすごい人間に私はなります。今の小学校6年生は、すごく頑張っている。負けそうなくらいだけど、今の6年生の子が中学1年生になったとき、やっぱり、先輩ってすごいなと思われ

るようになりたいです。」

この後も続きますが、この語りに象徴されるように、このパネリスト3人の学年の子どもたちは、全体学習を通して深い深い絆をつくり、後輩たちの手本になっていきました。それが、後の全体学習がより生きて働かすきっかけになりました。そして、この学年の15回の全体学習がずっと公開されていきました。

資料を見てください。真ん中に、全体学習を参観してくれた感想(メッセージ)が入れています。一番上の文だけ紹介します。これは、愛媛県の先生のメッセージです。この先生は、継続して全体学習を参観しておられた先生で、私とずっと交流のある被差別部落出身の先生です。

この先生は、私とのつながりの中で、全体学習を観るたびに自分を見つめ、自分の取り組みを深めていかれます。今回もこの文章を紹介させていただくということを連絡したら非常によろこんでくださいました。紹介します。

【この学年の全体学習を3年続けて参観することができた。1年1年の生徒の皆さんの成長をひしひしと感じた。後ろから見ているので、顔はわからないが、声を覚えているため、「ああ、この生徒がこんなに変わったんだなあ」と続けることの大切さをしみじみと思った。年が変わるごとに、先生方が吸収した新しいものをぶつけている。生徒を教えるために、教師がさまざまなことを学び取っていることがわかり、この姿勢こそが生徒を変えていくことにつながっていると思う。林竹二(元宮城教育大学学長)が本物の授業では生徒の学力差(単なる点数の違い)が消えると言われていたが、この全体学習がまさしくそうだと思う。生徒に対して、本当に誠実な先生方の生きざまは、私も含めてすべての教師が学び、身に付けなければならないと思った。

先日、板野中学校の卒業生で愛媛県のある大学に来ているある男の子と話す機会があったが、中学校を卒業しても、中学時代体験した全体学習が強烈なものとして残っていた。「教師に絶対になりたい。板野中学校の先生のようにになりたい」と言っていたが、心の底から揺さぶられた熱い体験は、ある意味で、人間が一生かけて歩むべき道や方向性まで決定させる強い力を持っているように思う。

今回の授業の中で、ある女の子が『自分は何もできていない』というようなことを言っていたが、そうではなく目に見えないものが身体の中に残っていき、一人ひとりの生き方の指針になっていくと思うし、一人でもそうあってほしいと願っている。

授業の中である男の子が、「自分の差別意識をなくしていくためにやっている」という発言があったが、私も、まずは自分が差別しないと生きていけないような醜い人間になりたくないというのが一番にある。そして、自分が本当に輝いた生き方を求めていけたら、どんなにすばらしいことだろうかと思っている。道徳の授業を通して自分の人間性を少しでも向上させようとする中で、つまらないこだわりから解放されていくよろこびや、それに共感してくれる人々との心の結びつきに、大きな喜びがあるように思う。

しかし、子どもたちを取り巻く日常の現実には厳しいものがある。偏差値による学校間格差や親の差別意識など、知らぬ間に子どもたちは差別を刷り込まれ、分断されていく。これはどこの地域でもあることだが、日常生活の中の意識と部落問題学習を結合させ、頭でなく体の中に、正しい知識を確立させていかなければならないと思う。そして、変わりようがないと思われる様な社会意識を変えていく啓発をいかにするか。それはどこの地域にも共通した課題であると思う。

それから授業の中でもう一つ心に残ったことは、友だちとのつながりが強いほど、差別を許せないという気持ちが強いことがわかり、仲間づくりの大切さを再認識した。反面、すべての差別に対して、「許せない」と思う度合いを、ある程度までは共通に持ちたいと思った。私自身も、部落差別、「障害」者差別、女性差別、エイズによる差別等、すべてに同じ意識化というと、そうではない。でも、ある程度までは同じ意識であるよう心がけたいと思っている。

板野中学校の生徒で、(被差別部落の生徒にかかってきた)差別電話に対して十分には共感できない面があるなら、他の地域ではなおさらでないかと思う。生徒に限らず、教師もそうかもしれない。共感の度合いを強くできる取り組みを、私も考えていきたい。淡々とした訴えであっても、おかしいことに怒りをもち、本気で取り組める感性を磨きた

## いと思う。】

本気で自分のことを語る。その思いを聞いてくれる。その思いに返してくれる。その絆というのは、一人ひとりの人生を本当に豊かにしてくれる。今から3人に語ってもらうんですけど、(じっくりと言葉を捜しながら)本当に切ない体験もあります。そういったものを仲間との絆の中で乗り越えてきた。「今、ここ」を誠実に生きている姿に出会っていただければと思います。

(ニコニコと)最初に、(テーブルに置かれている鳴門金時を持ち上げ、Bさんから自分が使おうと思ったのにと突込みが入り、会場が明るい笑いに包まれる。その雰囲気を楽しむように)鳴門金時を作っているB君に語ってもらうんですが、実は、昨日あふれる思いを聞いたんです。小学校4年生と小学校2年生の2人の娘の話になると、目に涙がたまるんです。

中学1年の家庭訪問のときに、初めて部落問題を語ったとき、おかあちゃんの中の溢れた思いというのは今も残っているんです。そんな話から昨日彼の家で盛り上がったんです。(溢れる笑顔の中、隣のBさんの肩に手を置きながら、作業服の名札を確かめるように)『B農園』です。結婚差別を乗り越えたお母さんの実家で、農業経営者として頑張っています。B君に話をしてもらいます。拍手をお願いします。(会場より大きな拍手)

## 《パネリスト B》

### はじめに

(元気いっぱい、笑顔の大きな声で語りが続く)ありがとうございます。こんにちは。このような場で話をさせていただく機会をいただき、ありがとうございます。私は、今、A先生からお話していただいたんですが、板野中学校卒業後、高校、大学と農業系の学校に進学しまして、母方の祖父母から経営を受け継いで、今年で19年、一生懸命鳴門金時農家をやっています。今日も、早朝の日の出前から11時くらいまで長靴を履いてドロドロになりながら仕事をして、ここに来させてもらいました。普段四六時中、野菜とばかり会話しているもので、こうして、ここで話をさせていただくことに滅茶苦茶緊張していますし、話も脱線すると思います。お聞き苦しいところも多々あると思うんですけど、自分の持っている思いを聴いていただければうれしいです。今日も勉強させてもらうつもりでここに立たせてもらっています。(力強く)よろしくをお願いします。

### 今、思うこと

今日は、徳島県の農業のおっちゃん代表として話をさせていただきますが、(テーブルの鳴門金時の袋を持ち上げ会場に示しながら)さっきA先生が持っていたんですが、見てください。鳴門金時を7月の第一週から、熱中症になりそうなくらい暑い日が続いたんですが、だいぶ修行の成果が出てきて色艶が良くて、納得のいくような芋が作れるようになりました。

野菜の話もいっぱいしたいんですが、ここらで置いておいて、いろいろこみ上げてくる思いがあるんですけど、(言葉を捜しながら)もう結婚して気がつけば14年くらいなるんですが、社会の中にある人間がしてしまうドロドロした部落差別とかも、もう解決しているんだという社会のイメージみたいなものが正直あるんですが、やっぱりいろんなところで、いじめによってすごく切ない思いをしている子どもが居ったり、虐待を受けてしまう切ない子どもが居ったり、毎日生活をしていても、何でこうなるんだというようなニュースや悲しくなるようなニュースを耳にすることがあるんです。

### 差別する側 される側 みんなが制限を受けている生活

(懸命に言葉を捜しながら)部落差別も、まだまだ結婚するときとか、いろんな場面で、若い世代も悲しい

けど差別をしてしまう意識を表に出してしまったりとか、体の中で抱えてしまっている方がいっぱいいると僕は思っています。

(緊張を自分でほぐすように胸をさすりながら)この会に来させてもらうときにいつも思うことは、やっぱり僕は、部落差別やいじめがあることでしんどい思いをするので、受ける側がしんどい思いをするんだろうと思われがちなんですけど、実際、あらゆる差別とか、いじめとか、いろんな問題があるのになににしまったり、認めてしまわざるを得ないような環境があるというのは、みんなが制限を受けて生活してしまっていると僕は思うんです。心の中にドロドロしたものがあることでは、部落差別に関して言えば、差別する側される側関係なく、みんなが制限を受けていると、やっぱりいまだに思っています。

(自分の思いを一生懸命に整理しながら)部落差別についての話なんですけど、部落差別を許してしまっている社会というのは、部落差別をしてしまう人というのは、言えば、社会の中で僕のことを認めないと言いますか、排除してしまっているということではないかなと僕は理解しているんです。

それで、(いっぱいの笑顔で体中でうれしさを表現しながら)僕は農業とか19年滅茶苦茶頑張っているんです。せっかく農業しているので、徳島県を盛り上げたり、活性化につながるような観光とか、農業の所得向上につながるような経営の仕方とか、ありとあらゆることを最近やっと取り組めるようになったり、村おこし的なこと、地域に貢献できるようなこと、青年の組織活動など、いろいろな場面で部長などもさせてもらって、思いっきり取り組んでいる僕がいるんです。子どものPTAとかも積極的に参加させてもらって、人間関係を楽しくやったら、すごく楽しく生きられると僕は思っているんです。

排除が部落差別なら 排除している人はすごくもったいないことをしている。こんな僕を排除することが部落差別だとしたら、排除する人はすごくもったいないことをしているんじゃないのかなと言えくらい頑張っているんです。農業者として誇りを持ってバリバリやっているんですが、自分に課題を見つけて、せっかくこうして生活させてもらっているんで、そんな差別なんて吹き飛ばしてしまうくらいの気持ちで日々の生活を送っているんじゃないかなと思っています。

昨日、A先生に家に来ていただいてお話したときに、改めてそう感じた自分があります。そういうことに気づけたからこそ、(あふれる笑顔の中で)これから先、僕は、娘が小学校4年生と2年生で、すごくかわいらしくてバレーボールをしている娘が居るんですが、僕は板野町で生まれて、板野町で生まれたことは娘に話して理解しているんですが、差別されたこととかは夫婦として娘には伝えてないんです。伝える伝えないに対しても、隣にいるCとも思いを話し合ったり、A先生にもいろいろ話を聞いてもらったりするんです。今日、この場でお話しする機会をいただいて、パワーをもらって、娘に話をするつもりでこの場で話をさせてもらっているんです。

### **自問自答が生活の一部に…笑顔で語る人権教育**

話は変わるんですが、僕の趣味は、野菜の生産をすることと、釣りと、こうやって人間関係や道徳について、向上心を持っているような場面で話をしたり、野菜をいじりながらいろいろ考えたり、常に自問自答するのが生活の一部になっているんです。趣味でありよろこびです。

だからこそ、差別やいじめなど、ドロドロした悲しい問題もあるんですが、そういうことをやってしまう、教育現場や子ども同士など関係ないと思うんですね。そういうことを認めている社会というのは、いかに損をしているかということを実に思います。もったいないです。まだ時間いけますか？

(笑顔でうなずくコーディネーターを見ながら)滅茶苦茶ドキドキしているんですが、今日、僕は、実は温かい心と、卑屈になってしまいそうな心と、人間だから揺れ動く心があるんですが、(力いっぱい)こうして、板野中学校と一緒に学んだ同級生、CやD君、そしてA先生と一緒に話をさせてもらって、みんなキラキラ輝いて、差別なんか吹き飛ばして幸せをつかんでいくよという僕を見ていただきたいなと、朝、芋を掘りながら思いました。

## この生きざまを見てほしい

娘にも、愛するパートナーにも、なかなか口では言えんかもしれませんが、生きざまで見せます！！まずは、キラキラとした、生き生きとした私自身を、今日見てほしいです。やっぱり、こうして語ることで、何が正解かわかりませんが、自分自身を解放していくこと、自分の思いを見つめなおしたり、相手にこんなことをしたらどう思うかなと考えたり、全部はわかりませんが、他人に対して温かくできたり、思いやりをもてる行動ができるために話し合うことはすごく大事だと思います。

日本とか、社会全部を豊かにすることを、僕は農家のおっちゃんとして思います。(書いてきた原稿を見直しながら)言いたいことはいっぱいあるんですが、時間もきていると思うんですが、(コーディネーターに確認するように)まだ時間大丈夫ですか？また話す機会いただけますね。

(コーディネーターの大笑いしながらうなづく姿を見ながら)A先生じゃないですけど、人権教育の可能性をやっぱり実感します！僕は、板野中学校でたまたま学ばせてもらったんですが、このパンフレットにも書かせてもらっているんですが、やっぱりこういう思いはあるんです。学ばせてもらってよかったなど、学ばせてもらったからこそ、自分も周りも変えていく自分でありたいなとかいろいろなことを思います。

学ばせてもらっていないければ、農家のおっちゃんもしていないかもしれないし、これはわかりませんが、みんなで全体学習だと言って、いろんな思いを語り合う空間で学ばせてもらってよかったなあと思うし、形はちょっと変われど、こうして思いやりが子ども同士で持てたり、教員の皆さんで持てたり、地域で持てたりできるような学習の仕方、僕はやっぱり部落差別をなくしていきたいと思うけど、まず、人を大切にできる学習、実践できる学習、みんなが生き生き楽しく生活するために、日本を良くするためにやっといこうと思えるような空気感を、もっともっと出していければと思います。教育現場でも、少しでも良くなっていくと思います。(溢れる笑顔で)今日は勉強させていただきます。言いたい放題言いました。(拍手)

## 《コーディネーター A》

(ニコニコと)中学1年のときのしゃべりそのままです。(会場爆笑)中学1年のときの私のクラスの委員長なんです。4月の参観授業で、委員長として、開会のチャイムの鳴る前ですよ。クラスの中で、みんなに対して『乾杯』を歌いましょう。』『若者たち』を歌いましょう。』小学校で歌いきってきた子どもたちの歌声が、アカペラで、校内放送のような形で教室に響くんですね。

そのときに、ニコニコしながら一番最初に教室に入って来たのが、B君のお母ちゃんなんです。私は、B君の家の家庭訪問で、私のことを伝えた。B君が、自分が部落出身であるということを知っているということに初めて気づくんです。そして、私が帰った後に親子で部落問題のことを話をします。そのお母ちゃんとした話を、彼は赤裸々に生活ノートに書いてくるんです。

お母さんは、(徳島市)川内町の大きな鳴門金時農家の一人娘なんです。家の人から「絶対に部落の人と付き合ったらいけない。交際してはいけない。」と言われる中で、出会ったのが、B君のお父ちゃんです。猛反対でした。お父ちゃんとお母ちゃんは駆け落ちしたんです。でも、B君が生まれて、やっと認めてくれるようになった。

B農園は、今もたくさんの方がパートで働きに来る大きな農園ですから、小学校時代に、B君が農園を手伝いに来ると、パートで働きに来ている何人かは、結婚差別があった。部落の人と結婚しているということを知っていて、悪意があったかどうかはわかりませんが、「B君はどこの学校へ行っているの？」と問われる。そのときに、自信を持って「板野南小学校です」と言おうとしたら、おじいちゃんが、「藍住の学校へ行きよ」と返します。B君には、その嘘の意味がわかるんです。それが切ないと生活ノートに書いてきたんです。

いつか、おじいちゃんおばあちゃんと部落問題について話をします。絶対にわかってもらおう。彼にとっての

全体学習はそこから始まっていくんです。そして、お母さんが出た実家、鳴門金時の農園を継ぐために、農業高校に行って、農業大学に進んで、そこでパートナーのEちゃんとお出会うんです。Eちゃんは、イチゴ農家の娘さんです。

Eちゃんとの結婚のときに、自分が部落出身であるということを、彼女の両親に伝えたら、この良い関係が崩れないかと思って、なかなか言えませんでした。その当時の切ない思いが語られたのが、啓発ビデオ『峠を越えて』～魂の同和教育実践者・A～です。そのときにこの前にいる3人が、その啓発ビデオに登場したんです。

でも、結果として彼は、彼女の両親に自分が同和地区ということ、(Bさんに確認しながら)言うたん？(Bさんから照れくさそうに言っていないですよと言葉が返る)あのビデオでは偉そうにいうけど、よお言わなかったんです。言わずに結婚したんです。あの啓発ビデオが出て、この前に要る3人もいろいろなところで呼ばれます。四国中央市の川之江というところで、B君とC君がしゃべったんです。

そのときに、フロアからEちゃんが手を挙げてマイクを握って語ったんです。(Bさんに向かって)何を語ったか覚えている？(Bさんのうなずく姿を確認しながら)何を語ったかと言うと、Eちゃんは、Bは言わなかったけど、結婚前にEちゃんが両親に(B君が部落出身であることを)言っているんです。Eちゃんは、こんな語りを川之江の講演会でしてくれました。

**「Bさんは、すごく気にしていることがあるんよ。実は、お父さん、お母さん、Bさんは同和地区出身で、そのことを気にしているんよと私は言いました。そのときに両親が私にこう言ってくれた。『E子な、まだそういうことにこだわる人って居るかもわからん。でも、それは間違っていることだから、何も恐れることはない。もし、仮にお前らの結婚についてとやかくいう親戚が居たら、お父さんとお母さんがしっかり話をする。何も恐れるな。これからはBさんとの生活が長いんだから、Bさんにかわいがってもらえ。大事にしてもらえ。お前らが幸せになることが、お父さんとお母さんの願いだ。』両親はそんな話をしてくれました。」**

(ニコニコと)Bの語りは、勢いばかりで空回りしますけど、(パネリストたちが苦笑いしている中で)隣でEちゃんの語りは、心にスーッと入ってくるんです。本当に温かい時間だったんです。

私は、本当に一人ひとりが自分のことを自分の言葉で、心の内にあるものを生き生きと表現し合える関係になったときに、私たちの生きる誇りやよろこびは確かなものになっていくと思うんです。私は、この3人と過ごしたことは、教員人生の宝物です。

この後、C君にしゃべってもらいますが、C君の中学1年の4月の家庭訪問のとき、おばあちゃんとお母さんとC君の3人が迎えてくれました。全国で走り幅跳び、何位だった？(Cさんに問いかけ、指3本立て3位と答える姿を確認しながら)3位か。通された部屋に3位の賞状と写真が飾ってあるんです。この子は深い深い愛情の中で育ってきたんだなということを思いながら、私の話を一緒に聞いてくれた。

その場面は、本当に昨日のここのようによみがえってきます。そういう深い絆が生まれていく。部落差別があるということは切ないけど、それを乗り越えていくということは誇りです。そういう関係がずっとあるということ。これからC君にしゃべってもらいます。(いっぱい笑顔で)笑いを取りますから、しゃべりに期待してください。C君です。拍手をお願いします。「拍手」

## 《パネリスト C》

よろしくをお願いします。昔は、Tという名前でした。今は、Cという名前です。Bのこういう喋りを聞いているのも久しぶりです。いつもこんな感じなんですけど、(隣のBさんを何度も見ながら笑顔で)いつも疲れます。隣にいただけでどっと疲れます。(会場と登壇者全員から明るい笑いがこぼれる)

## **Bと共に全体学習を振り返って**

Bが本当に言いたかったことというのは、先生が代弁してくれたことで、でも、本当に真剣に考えていて、子どものこととか、仕事のこととか、滅茶苦茶しっかり考えています。まあ、考えていない方がおかしいんですけど、このフォーラムを迎えるにあたって、先日も夜遅く、子どもが寝てしまってから、僕の家で酒を飲みながら話をしていました。

自分の子どもに同和地区であることを伝えるか伝えないかということも話しました。子どもはまだ小さいんですけど、Bと同じくらいで、上が小学校に上がったくらいです。いろんな話をしましたが、(一言一言を整理しながら拾い出すように)その中で出た話をいうのは、まず、自分たちがなぜこういうステージに立っているのかということ振り返ったときに、このパンフレットにも書いているんですけど、中学校で出会った全体学習の中で生まれた仲間とのつながりがうまいこといったというか、言い方は小さいんですけど、いいようになったなというのはすごくあります。

## **先生と生徒が共に考え 共に発信し 共に悩んだ全体学習**

その中でも、嫌なことがあったり、良いこともあったりしたんですけど、悪いことがあったときに、それをそのままにするんじゃなくて、良い方に転換できるような、力量というか、そういうものも見つけられた。生徒にとったら、本当に自分のことが言いやすい環境でありました。友だち同士、学年同士の中でつながるというのもすごく大事だと思うんですけど、先生が先生の立場として言うんじゃなく、先生と一緒に考えて、一緒に発信して、一緒に先生も悩んだとか、(手で軽く示しながら)今日、Y先生も来てくれているんですけど、Y先生が中学生の生徒の前で泣きながら自分の話をしたりして、本当に何も知らない人にとったら、生徒とゴッチャになると思うんですけど、なぜこんなに必死になって伝えているんだろうと思える経験をさせてもらいました。そういう、環境を恵まれた環境だと僕は思います。

## **会社の中で中堅としての自分の歩み ~日々の葛藤~**

そんな中で高校に行き、社会人になっているんですけど、日々モチベーションが高い方ではなく、今も、日々いろんな葛藤がありまして、(何度か隣のBさんと確認するようにまなざしを送り合いながら)会社員として勤めて20年くらい経つんですけど、中堅くらいの立場になっています。

やっぱり、Bは、同和地区対象という話をしたと思うんですけど、僕はいろんなものを抱えながら、社員代表として話をさせてもらっています。守らなければならないものというのがあります。

その中で、必然的に守っていくものとしては家族だったりするんですが、今は、女性が社会の中で男に負けないくらいやっているんですが、その中で立場とか地位を気にしたりする年になります。(懸命に言葉を捜しながら)会社とかになったら、いろんな者が関わっているので、平気で人を傷つけてしまう現状というのが飛び交います。自分自身もそうなんですけど、それをパワハラにしてつぶしてしまうということもあるし、自分も必死のときは、平気で後輩に対して、例えば、「この仕事ができるまでは休憩はない」とか言ったりもしていました。

## **会社に来られたおじいさんみたいな方から言われた言葉**

あるときに、1年位前ですけど、この会社を変えないかという話が上層部からありまして、本部からお偉いさんが来られました。その中に一人、おじいちゃんみたいな方が来られました。仕事に対する戦略的な部分などを教えてくれるのですが、まずは人を大事にしないで、人と向き合って対等に話をして、それが下の者であろうが上の者であろうが、とにかく大事にしないでと言われました。僕たちは、後輩を育てていく立場に今はなっているので、そういう気持ちを忘れないようにという話をされました。僕だけでなく、僕より



上の方も話を聞いて、仕事をやりやすくする、その思いで来られたおじいちゃんみたいな方は、すごく良い人で、いろんな人とのコミュニケーションの仕方や自分自身を語れる業も聞きました。

なかなか会社では深い話はしないんですけど、あるプロジェクトを抱えていて、その打ち上げをしたときにもその方に来ていただいて、「今、こうして勤めているんですが、業績も悪化し、私は同和地区出身なものですから、立場で傷つくことがありました。こういうことがあって正直しんどい思いをすることもありました。」とお話したら、そのおじいちゃんは、「実は、わしも若いとき、会社で人を育てていく立場のときに、部下にお前と同じ立場の者もおった。私はどんどん仕事をやらせた。同和地区だからやらせるというのではなく、鍛える、みんな同じレベルで働かないかんので、同和地区だからということなどに屈することなく頑張る、仕事は仕事として頑張ってもらおうということで、陰ながら支えてやったつもりだ」と言われました。

### 心に響く言葉への聞く側の反応

その人が、心に響くようなことを言っておられるんですけども、周りで同じ話を聞いた人の中には、やっぱり届ききっていない人も多いですね。同じ部署でも、隣の部署でもそうです。自分自身は、4つの部署を面倒を見なければいけない、1つ上の位置にいます。中には、人を大事にして仕事をやっていますよというのを、見せた仕事をしている人もいます。

でも、下からしたら、口先ばかりで休憩も与えてくれないだの、言葉に暴言があるだのと、若い子から出てきます。上からにはいいように見せて、下には一応やさしくは言うんですけど、下の子が納得していない。ちょっとこの場の流れがおかしいんじゃないかというところで、上の人に特化して話をするときに、人を大事にするというのは、やさしくばかりではいけないと思うんですけど、新入社員に対しては「こんなことができるのか」と、すぐにバカとか阿呆などと平気で言う。

新入社員が何もできないのは当たり前で、(身振り手振りを加えながら)人を傷つけてしまうことが簡単に言ってしまうという環境があるんです。そんな中で、僕は感じるし、言うし、疲れもするんですけど、人のバックグラウンドをすごく大切にされていて、(自分の思いをひとつずつ紡ぎ出しながら)その人の抱えていることの大小は、いろいろあると思うんですけど、その人にうまく伝えられる、その人をうまくフォローするには、相手が、僕たちの後輩が、いろんな条件があるんですけど、普段どんな生活をしていて、どんな痛みがあつて、どのように気分が悪いのかなどをわかる必要があると思うんです。

### 新入社員とのかかわりの中で

僕も会社では、18歳の高校を出たばかりの新入社員も下につけられます。全然話も合わないのですが、どうしたらこの人のことを理解できるかという葛藤もあって、上からは、「お前はいつも成績を上げているけど、今年成績を上げれば一個くらい上の管理職になれる」という話をいただいたんです。現場では新入社員を付けられています。

僕は、上にも行きたい。でも、この新入社員を抱えているから行けないという状況にもあります。案の定、僕の成績も上げたいからという中で、下の子から辞めたいと言われて、そのときに上から言われたのが、「辞めさすな」ということでした。

何を思って辞めさすなと言うのかは知らないんですけど、僕は、人を大事にできてなかったのかなというところも若干ありまして、いろんなコミュニケーションとかとりながら、話もしながら、「明日につながる仕事が今日はできたな。ありがとう。」という言葉もかけながら、今はやっているんですけど、その、言葉の使い方とか、人との関わりの中で、この前、すごくボキッとやられてしまったことがありました。

(懸命に言葉を捜しながら)僕のことをすごく大事にしてくれる上司と、僕がすごく大切にしていた部下がいました。7時半くらいに帰らせてもらって、その部下と2人で酒を飲みに行きました。いろんな話をして、

いろんな気持ちを聞き、僕の抱えているプロジェクトにも入れて、一緒に頑張っただけでやり遂げました。その子からは「先輩でよかったです」と言われました。

その子が僕の手から離れたんですね。それから1ヶ月位してから会社を辞めたいと言いました。辞めたい理由というのが、他にもやりたいことがあるということでした。23歳24歳くらいの子で、すごくかわいがっていた子なんで、いろいろ話したんですけど、僕も、深く関わりすぎた以上に、会社がどうのこうのではなく、その子がすごく大事で、そこまで言うのなら、お前の思うようにしたらという話になって、その子は「仕事を決めてきているんです」と言いました。「もう決めているんか」という話だったんですが、そんな中で辞めてしまった子がいます。今日で終わりという日に、泣きそうになりました。そこまでして、人と人とのつながりが大事と言ってくれた現場で、僕もそう思っていました。

### 辞めた部下についてのある方から言われた言葉

そう思っていて、その子とも必死で向き合ってきたんですけど、ある方にこう言われました。「実はな、辞めたあいつが、お前のことを嫌いと言って辞めて行ったわ」と僕にボソッと言われました。僕は、もう、「エエッ？」となって、声が出てしまっただけ。

その子が本当に言っていることではないことは、僕はわかっています。大事にしていたし、すごくつながれていたと思うので。そのボソッとやった人にはわからないくらい彼とはつながっていて、仕事も頑張ってもらおうと思ってやっていたので。なぜ、人の大事にしていたものを砕いてまで、何かをしようとする気持ちがわからなくて、上司だったら、部下が誰をどのように大事にしようとしているのかを見えていなかったらいけないと思います。結局、人と人がつながるといえるのは、上辺だけでどうでもいいんじゃないかと、実際に、人を大事にするという方向に進んでいったところで、成績とか、業績は今、ダウン気味になっているんですけど、でも、そんな中でも、人を大事にするというのはすごく必要なことだと、僕は思っています。

何て言ったらいいんだろう…。(言葉を捜しながら)こうして、昔からつながっている環境の中で、友だちとかと付き合ってきて、いろんな話を僕とかはできるんですけど、なかなかこういう教育を受けてきていないところの人は、自分中心の考えになってしまいがちではないだろうかと思うところがある。その中において、この会社どうなってしまうんだろうと思います。僕はモチベーションは高いほうなんですけど、こんなことに負けてたまるかと思いつつ葛藤中でした。

### 娘の変化の中での保育園との関わり

(飛んでしまった言葉を捜しながら)今のことが1点。人のつながりということでもう1点話をさせてもらいたいことがあって、僕は娘が2人いて、この春、上の子が大好きな保育園を卒業したんですけど、小学校1年生になって、夏休みに入ったにもかかわらず、いまだに保育園の年長組みに行きたいとか、友だちの名前を書くとかがあって、あるときに、上の子が紙にいつも絵を描いてくるんですけど、(手まねしながら)ワアッと真っ黒なペンで「保育園嫌や。先生嫌いや」と書いてきました。

奥さんの方が、これまでこんなことなかったから、先生に相談しようかということで、先生に相談をかけたしてもらいました。保育園の先生と面談です。

子どもがこうなった背景にはいろいろあったらしく、家の娘は杏姫(あんじ)という名前なんですけど、「杏ちゃんは頭いいな」と先生が言うと、「結構な」と軽く返す。それだけのやり取りなんですけど、すごく子どもが傷ついてしまっただけ…。

普段親があまりしゃしゃり出るのもなんなのですが、保育園の先生とも面談させてもらって、何のことかわからん教員の方もいらっしやると思うんですけど、教育に関わる人から見たら面倒な親やとなってしまうかもわかりませんが、そういう意味で先生と話をさせてもらったんです。やっぱり、そういう事実はないと、言い逃れではないですけど、お互いが言い分はあり、俺たちも先生の話聞いてよかったなと思いま

した。

そんな中で、保育園の先生って女の人がたくさんいるので、「面談があるらしいよ」とか「あの先生、Cさんのところから言われるんよ」と事前情報が行くところがあるんですね。僕たちのことはもう解決していたんですが、園長先生が言った隣の先生とどうつながっているのかとか、やってしまったことの実実はもうこれでいいんですが、これから後ろ指を差される可能性がないとはいえず、「園長先生は、この先生を100%の力で守ってあげようという気持ちはありますか？」と言ったら、「あります」という答えでした。そのときはそれで終わりました。

次の日に、園長先生が、学校の会で「こういう事例がありました」と僕の言ったことを話してくれたらしいんです。こういう事例があったけれども、この先生は大事で今も居ってという話になったらしいんです。

すると、あの先生が僕のところに来て、「保育園の園長先生が、誰も傷つかないように指導体制をとってくださいと言ったと言っていましたけど、Cさん、そんなこと言っていないよねえ…。」と言いました。(会場に問いかけるように)なぜ、そんなに人を傷つけたがるんだろう。

自分の会社にしても、人を傷つけることによって、自分がそれで成長するならいいんですけど、人を傷つけることによって、自分を本当の意味で高めることができているのかなと思ってしまいます。本当のつながりって、(パンフレットのメッセージ文を示しながら)こういうことだと思うんですが、(隣でDさんがうなづく)そういうところで今、葛藤があります。

いろんなところで子どもを守るためにすごく必死で、面倒くさい親かもわからんですけど、(自分の思いを懸命に整理しながら)部落問題でも、同和地区だということを子どもに対して言うか言わないかという話にしても、以前は自分から言おうかなと思っていたんですけど、先に子どもがピンと来たときに、親から何も言われていないのは寂しいかなとも思うところもあるし…。

#### **同和問題 奥さんのかかわりについての葛藤**

それを僕だけがどうこうということではなくて、奥さんにも一緒に考えてもらわないかなということで、A先生の『スダチの苗木』のDVDを奥さんと一緒に観ました。すごくよくできたDVDで、演技もすごく上手で、奥さんがこの後、酒もだいぶ入っていたので、何をどう観たかわからんですけど、「A先生もしっかりやらんで…」(会場に笑い)どう観てくれたのかはわからんですけど、最初から最後まで一緒に座って観てくれたことがありがたかったです。

フォーラムの話もするんですけど、この同和問題に対する僕の気持ちが高ぶっていたら、一緒に交わってきてほしいんですけど、そっと見守っているというスタイルになっているので、巻き込むべきなのか、(Bさんを見ながら)きっとEちゃん(Bさんの妻)もそうだったと思うんですけど、すごく考えてくれてるかなというところで、結婚して奥さんのことを愛しているんですけど、奥さんも交わるかということも葛藤の中にあります。まだ言いたいことはいっぱいあるんですが、この後D君につなげるので、この辺で終わりたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

#### **《コーディネーター A》**

(Cさんに笑顔で)だいぶたまっとるな。(会場に明るい笑い)共感のない家族の関係は切ないし、共感のない職場の関係も切ないし、学校の関係もそうです。同和教育、人権教育がずっと大事にしてきたのは、そこに本当に共感があるか。自分のことが言えるのか、聞いてくれるのか、そういう職場の中だったら、力がわくと思うんです。

悔しいことが悔しいと言えるし、嫌なことが嫌だと言えるし、それをみんなが支えてくれる。そういう職場にしたいと思うんです。攻撃されないか。何か言われぬか。傷つけられないか。そういう恐れやおびえの中での関係というのは、切ないです。人を人として大事にできる。安心して自分の本当の気持ちと言える。

聞いてくれる。返してくれる。そういう関係を作っていくしかないと思うんです。それはやっぱり、自分の居場所を作ることだと思うんです。そういうものをめざしていきます。でも、社会に出たら、なかなかそうは行きません。うまく行くときもあるかもわかりません。でも、そうではない現実がいっぱいあります。でも、やっぱり歩き続けていくことが問われていくんだと思います。

D君に今からしゃべってもらうんですけど、彼は、小学校の教諭から板野中学校に今行ってくれているんですが、やっぱり夢を託します。特に同和地区の子どもたちは、教師になりたいと言って卒業していきます。なかなか教師になれない現実があるんです。彼は、そういう仲間の代表として、教師になって板野中学校で頑張ってくれています。

同和問題に関する法が切れて、2002年以降、地区学習会もなくなって、子どもたちが立場を知らない。そういう状況の中で、かつての人権学習の中身とまた違う人権学習になっている。そんな中でいろいろなジレンマもあろうかと思えます。しかし、教師であるという誇りとよろこびを持って、歩き続けてほしいと思います。

これから教師になろうとする中学生・高校生・大学生が、これから語ってくれるD君の言葉をしっかりと受け取ってほしいし、彼自身のつながりの中で、中学3年で担任をしたんですけど、本当に語り合えるクラスをリードしていくんですね。

彼が高校2年のときにやった公開授業というのは、今も心に残っているんですけど、そのすごい授業を、彼はリーダーシップを取って作っていくんです。そういう思いが教職への道に歩ませていったんだと思います。かなり期待していますので、期待を裏切ることのないように(笑顔でDさんにダメ押しする姿に、会場に明るい笑いが溢れる)しっかりと語ってってください。いいですか?時間はそんなにはないですよ。(会場に笑い)では、拍手しましょうか。(拍手)

## 《パネリスト D》

失礼します。板野中学校のDです。自分の母校である板野中学校へ赴任して、この場で同級生の仲間と一緒にパネリストとしてお話をさせていただくことを本当にうれしく思っています。今日はどうぞよろしくお願い致します。

### 全体学習がなければ、教師になっていなかった

自分自身が全体学習を通して学んだものは、本当にたくさんあります。もし、あの当時の全体学習がなければ、自分は教員になっていない。そう言えるくらいあの全体学習が大きなものを残してくれました。今日は「時間を短く」と言われているので、その中でも2つに絞って話したいと思います。

まず、一つ目が今日のフォーラムのテーマでもある「ひとごとからわがことへ」ということです。自分自身は中学校のときから高校時代も大学時代も、教員になった今でも、人権学習に取り組んでいるのは、「自分のため」だと思って、取り組んでいます。あの当時から、ずっとキーワードとして出ていたことは、「自分のことを本当に好きと言えるように」「自分自身がキラキラと輝いた人生を送っていけるように」です。その気持ちは、今でも変わっていません。

人を差別したり、人を見下したり、先ほどのC君の話にも出てきたように、人を陥れたりして生きていく人生というのは、本当に誇らしく思えない。だからこそ、自分の心の中にある「自分以下を求める心」であったり、「差別につながるような心」であったりするものとしっかりと向き合っ、自分自身と闘っていく。これは自分の恩師であるA先生から教えられた言葉で、今でも、子どもたちに伝える言葉ですが、「自問自闘」につながります。自分自身の心に問いかけて、自分自身の心と闘いながら、それに打ち勝っていく。そういうことを続けていくことで、自分の人生が充実したものになってくる。そう信じながら、自分自身はやってきました。

## 変わっていった自分

しかし、自分も初めはそんなことを全然考えていませんでした。中学校に入学して、全体学習に出会った時、隣にいる2人はA先生が担任で何度も発表していて、大活躍でした。そこに乗り切れない自分がいました。しかし、途中から仲間たちの頑張りに触れて、自分自身は本当にこのままでいいのだろうかと考えるようになりました。そして、中学1年生の冬、今でもはっきり覚えています、自分のクラスが真ん中で授業する全体学習がありました。そこからみんなの前で自分自身を語るようになって、自分の心と向き合いながら、自分の心にある弱い部分を吐き出すことによって、いろいろなものが変わってきました。

まず、自分自身が変わったのは、部活です。今、隣にいるC君、小学生の時、走り幅跳びで全国3位入賞するようなすごい選手でした。自分はC君に勧められて、小学校4年から陸上を始めました。中学校に入るときも、野球部に入ろうかなと思っていたんですが、C君に「D、やっぱり陸上するよな」と勧められて、陸上部に入りました。自分にとってC君は、あこがれの存在でした。

しかし、その当時の陸上部は練習がきつくて、ほとんど練習に行きませんでした。幽霊部員に近い状態でした。それが、中学1年の冬の全体学習で、自分自身を語るようになって、自分の生活を見つめるようになり、そこからは陸上の練習を休んだことが、記憶ではありません。そこからずっと陸上をやっている、C君はすごい存在でしたが、自分のペースでできることを精一杯やろうと思えるようになり、自分に自信がつかってきました。

その自信が次に勉強の方にも、生きてきました。勉強も陸上と同じように、自分自身の弱い心と向き合っていくことが大切です。中学校の全体学習で「教師になりたい」ということを語っていましたが、実際に勉強しているかどうかを問われると、勉強しきれていない自分がいました。しかし、全体学習を通して、みんなの前で自分の思いをどんどん吐き出すことによって、自分の心と向き合い、もっと頑張らないといけないと思い、その中で伸びてくる自分がいました。自分の自己肯定感を高めてくれたのが全体学習であり、自分の原点だと思います。

## 生徒たちに伝えている自分の歩み

だから、初めに言ったように、もし、あの当時、自分が板野中学校にいなかったら…全体学習で多くの人の前で、自分の心と向き合いながら話すという機会を与えられていなかったら…今、自分は教員という立場に立っていない。今、そういうふうな話も、生徒の前でもします。

今でも、中学校の時に思っていた「今、自分にできること」「自分を信じてどんなときも一生懸命頑張る」その部分というのは、今、生徒にも伝えているところです。また、先ほど、A先生が言ってくくださったように、高校時代、県の同和問題研究大会のときの発言資料を読み返しても、今言っているようなことと同じようなことを言っています。だから、A先生が、中学1年のときと、今のB君の語りが変わらないと言っていました、自分自身も根底に流れているのは、中学3年間で過ごした全体学習で、今の自分がある。そうしみじみと思いながら、日々できることを生徒と共にやっている状況です。

## 全体学習で学んだ仲間とのつながり

もうひとつ、全体学習で自分が学んだことが、仲間のつながりでした。今のC君の話の中にも出ていたように、あの当時、色々なメンバーが、自分自身の心と向き合いながら自分を語っていく場面が多くありました。その中には、人前では出たくないもの、見せたくないものというものもあったと思います。しかし、そこで言った子を独りぼっちにしないつながりが、自分達の当時の全体学習にはありました。生徒だけではなく、先生もその輪の中に入って、先ほどC君が言ったように、後ろにいるY先生は、生徒と共に泣きながら訴えてくれたという場面がありました。A先生のように、熱く語りながら自分たちを導いてくれる先生もい

ました。また、1年生のときの担任は、その当時の何十枚にもわたる指導案を生徒に見せて、語ってくれました。やはり、生徒も先生もその場のフロアにいたみんなが、仲間だったからこそ、何でも言い合える仲間づくりができたんだと思います。

### **高校でできた徳島県高等学校同和教育研究大会の授業**

そういうような経験があったからこそ、自分が進んだ板野高校で2年生のときに、先ほど話に出てきた県の同和教育研究大会ができました。その当時、私のクラスは板野中学校から進学している生徒が約25名くらいで、町外から来ている生徒が15名くらいでした。話し合いをするときに思ったことは、すごく温度差があるということでした。例えば、板野中学校では、全体学習で当時熱い語り合いをずっとしてきましたが、発表してきた側、聞いていた側など、色々な立場の人がいました。そこを埋めようと、話し合いを何度も何度もクラスのメンバーでしました。

その中で言われた言葉が、今でも忘れられずに残っています。「あの当時の全体学習で、もし、Dや田中(現在のCさん)、B達と違うことを言ったら何を言われるかわからるので、怖かって言えんよ。」これは本音だったと思います。それを言ってくれたときに、それは違うというのではなく、受け入れて、いかに仲間になっていくかということがすごく大事だなと思いました。だから、そのときにしっかり話を聞きました。町外の友達は、板野中学校の全体学習も知らないので、どういう学習を中学校でやってきたのか。今、どう思っているのかを正直に話をしようというところから始めて、話し合いがずっとつながっていきました。

そして、公開授業当日、授業は50分ですが、授業が始まる前から、生徒たちでウォーミングアップをしようということで、始まる20~30分前から授業をスタートしました。そのウォーミングアップも含めて合計で1時間30分くらいの授業をしました。その中で、担任の先生が発言したのはたぶん3回ほどです。その時間はすべて生徒たちの語り合いの時間でした。自分はそのとき、司会をさせてもらっていましたが、一人ひとりが、今の自分の本当の思いを包み隠さず話していました。そして、それを否定するのではなくて、お互いが信頼し合っているからこそ意見を言い合うという授業を高校生のときにすることができました。

### **大学時代に知った同和問題についての温度差**

また、大学生になったときも、鹿児島から来ている友達が3人いました。当時自分が20歳くらいだったので、17年位前の話ですが、その友達が言っていたのが、「寝た子を起こすな」という考えで、「何で、同和問題のことを勉強するの？そんなこと誰も言わなければなくなるよ。」という意見でした。

そこでも、いろんなことを話しながら、お互いに語っていく事ができました。そのときに、鹿児島の友達が言っていたのが、九州男児に対することでした。「九州の方では、まだ男尊女卑の考え方というのがすごい。お母さんがお父さんに口ごたえするなど考えられない」ということでした。そこでも、地域のちがひ、温度差ということを知って、相手を知ることから始めることが、差別やいじめをなくす第一歩なのかなと感じました。

今、子どもたちにも、「正しいことや相手のことを知らないから、差別やいじめをしてしまう。だからこそ、正しく学んで、相手のことを知ることに始めよう」ということを話しますが、すごく大事なポイントだと思います。

### **母校の中学校で生徒に伝えたい、はずせない2つのこと**

今現在、板野中学校に赴任して、あの当時の全体学習のようなことを、自分自身の中ではしたいという思いはありますが、正直、時代も変わって、難しいところもあります。

しかし、自分の中で絶対に外せないポイントが2つあります。それは、先ほど言ったように、何のために人権学習をするのか、それは『自分のため』ということなのです。それともうひとつ、『仲間とのつながり』を

つくっていくということです。その中で、今、自分にできることを、自分を信じて、どんなときも一生懸命やり続けていくことが、自分のためにもなるし、世の中みんなのためにもなる。そういうふうな気持ちを持ちながらやっていると、きれいごとだけの学習で終わってしまい、生涯の取り組みになっていかないとすることは、常々話をしています。

正直、自分の力不足もあって、どこまで生徒たちに伝わっているのかということは、分からないところもあります。しかし、自分自身がずっと言っているように、自分に今できることをやらないと、後悔してしまうので、熱い思いを持って、生徒たちとも接していています。そして、少しでも自分のためにもなるし、生徒たちのためにもなることを色々と考えながら、試行錯誤を繰り返している毎日です。この後、フロアの皆さんからも色々な話を聞き、そこで学んだことを生徒たちに返していけたらと思いますので、よろしくお願いします。(拍手)

### 《コーディネーター A》

今、話に出た高校2年の公開授業ですが、私は授業開始15分くらい前に見に行ったんです。その見に行くきっかけというのは何かといたら、その当時のクラスのメンバー5～6人が私のところに相談に来たんですね。公開授業を、ただいろんなことを勉強するだけの学習じゃなくて、意味のある授業にしたい、語り合いたいし、自分のことを伝え合いたい、そういう学習をしたいんだということで相談に来て、公開授業を見に来てくれということだったので、早めに行ったんです。行ったら、早くから始まっているんです。まあ、ウォーミングアップということで始めていたんですが、それがどんどん深まってつながっていくんです。そのときに若い先生が授業をしているんです。その若い先生がかっこよく見えるんです。また、その若い先生の言葉が的確なんです。

高校にもこんないい先生が居るのかと思いながら、その先生の隣に年配の先生が居て、このクラスはT・Tで人権学習をしているのかなと思ったんです。2人の先生の呼吸がすごくいいんです。私は、その授業の記録をとりたかったので、前にカセットテープレコーダーを置いたんですね。それでまた生徒たちがいきり立ち、意見がまたワァーッといっぱい出てくるんですね。若い先生が授業しているんですけど、どこかで声を聞いたことがあるんです。よく見ると、シャツとネクタイが他の生徒と一緒になんです。よく見ると、生徒が授業しているんです。それがD君です。

(会場に驚きの表情が広がる)語りは今と一緒にです。(笑顔でDさんを見ながら)語りはあの高校2年からほとんど変わらんな。そのやり取り、語りを引き出していく力、今のままです。やっぱり切ない言葉も出てくるし、初めてこんな話をしたということ、みんなが言ったような話などがどんどん出てきてつながっていくんです。語り合うということは、ずっと我々の心を磨いていくし、それが生きる力になっていくと思うんです。この場もそうだと思うんです。こんなことは絶対言うことはないだろうと思っていたことが言える。変わっていく。そういう学びというのは、常に自分に何ができるかということ問い続けていく営みだと思います。

休憩に入るんですけど、(いっぱいの笑顔で隣のBさんの肩をたたきながら)どうしてもしゃべりたいとウズウズしています。彼の言葉の後で休憩にしたいと思います。

### 《パネリスト B》

(元気よく立ち上がり、溢れる笑顔の中で語りが続く)ありがとうございます。まず、農業のおっさんとして、農業は豊かな日本を形成するためにはなくてはならないものだと思っています。それと同じように、人権教育は、今の社会を豊かにするためには、今日もこの前に居る皆さんのお話を聞かせてもらって、絶対必要でないかなと改めて思いました。

教育現場であったり、学校の現場であったり、職場であったり、地域であったり、本当にいろんなところ

で、さっきもCの語りであったんですけど、排除してしまうような関係性ではなくて、お互いを認め合って、お互いに向心を持って企業を盛り上げていかんか。農業を盛り上げていかんか。これから子どもたちの心が豊かになっていくように盛り上げていかんか。

そういうことをみんなが実践したら、絶対企業の能率も上がると思うし、いろんな人が安心してものが言えて、A先生の言う、しんどいことはしんどい、楽しいことは楽しい。お互い高めあっていこう。社会を良くしていこう。教育現場を良くしていこう。農業を盛り上げていこうと思えるときに、僕はみんなが豊かになると思います。

自分だけの意見かなと思ったんですけど、今日、これまでの話を聞かせてもらっていて、僕はそう思いました。だからこそ、この8月2日のフォーラムの場を、人権教育や道徳について学べるこの会場、良くしていくために話ができる。(自分の言葉を確認しながら)PTAであったり、いろんな場でこういう活動が実践できていったら、絶対によくなると思います。

最後に繰り返しになりますけれども、人の痛みがわかる、想像力がもてる教育。それは、企業でもそうだし家庭でもそうだし、大人も子どもも関係ないと思う。良いこと、悪いこと、したことすべては自分が歩いてきた道で、良いことをしても悪いことをしても、どんな生き方をしてもすべてが、自分に返ってくるのではないかなと、よく妻と話をするんです。「そうや」とよく言ってくれます。今日話をさせてもらって、やっぱり僕はこれからも農業を一生懸命していくんですが、こうしてお話させていただいたことは、地域に持って帰っている話をさせていただけたらと思います。今日はお話をさせていただき、本当にありがとうございました。ありがとうございました。また後半も勉強させていただきます。ありがとうございました。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

D君が、全体学習があったから教師になったという話をしてくれました。この場は、大人の全体学習です。やっぱり、わがこととして自分を伝える。それを必死で聞く。そして返す。そんなやり取りの中で、私たちの価値観が変わっていく。

人として、家族の中での共感、職場での共感、そんな豊かな関係を作っていく。そんな自分にしていく学びが広がっていったらうれしいなと思います。これから10分間の休憩を取らせていただきます。

広島の前田先生は、この日を本当に楽しみにしておられましたが、この暑さで体調が悪くて来れなかったんです。ご高齢でもありますので。先生のまとめられた著書「差別・被差別を超える人権教育」～同和教育の授業実践記録を読み解く～を後ろに置いています。よろしければ手に取ってください。その本に関わる資料も提示していますので、ぜひ、言葉を受け取っていただけたらと思います。では、今から10分間休憩を取らせていただきます。3人に拍手をしてやってください。(会場に大きな拍手)

#### 前半終了

#### =意見交換=

#### 《コーディネーター A》

(しみじみと)昨年、愛知県から3人の若者が来てくれました。その写真が、今日のチラシの下の方に、白黒で少し見づらいんですけど、並んでいます。(ニコニコと)たまたまC君が出会った、部落問題などを学習していない、そういう学びを体験していない若者が、C君を通して部落問題がわがことになっていく。人と人とのつながりって、本当にいいなあと思います。

(じっくりと)その中で、彼らが昨年語ってくれた言葉の中に、ずっと仲間をつくっていきたいということで、自分の立場を、部落出身ということ必死に伝えたときに、さらっと流れていく。共感がなかなか生まれない。必死で伝えたのにスルーされていく。なかなかひとごとがわがことにならない。その切ない現実を語ってくれました。



昨年のアンケートの中に、そのことに触れて、「自分は、そういうことと向き合える生き方をしたい」。そう、自分の生き方としてアンケートに思いを綴ってくれた方もありました。この場で発言していただいた方だけじゃなくて、アンケートの中に、自分のことを自分の言葉で、自分自身の切ない思いを綴られる方がたくさんおられます。こんな素敵な研修会って本当にないなと思うんです。今回も県外からたくさんの方がおいでいただいています。

実は、3日前に福岡の先生からメールがきました。「今年は退職の年で、どんなことがあってもフォーラムに行きたい。5年前にこのフォーラムに来て、すごい力をもらって子どもとの向き合い方が変わった。もう1回自分を振り返る場として、フォーラムに行きたい。でも、どうしてもはずせないことがあって行くことができない。無念です。」そんなメールをもらいました。でも、やっぱりつながっています。

(うれしそうに)今も、愛知から昨年来てくれたR君から連絡が来ています。5月1日に入籍したんです。縁あってこの場で出会えたこと、この場でつながれたこと。そういう関係性が私たちの広がっていくこれからの時間になればと思います。あつという間に時間がきますので、あまり長くしゃべられると厳しいものがあります。できるだけ多くの方の思いに出会っていただければと思います。挙手をしていただけたらと思います。(ニコニコしながら隣の席のBさんをいじりながら)前の方にしゃべりたくてたまらん人もいます。後で彼の発言も保障したいと思います。(フロアに明るい笑い)では、挙手をしてください。(すかさず手が挙がる)はい、お願いします。

## 《フロア H》

(立ち上がり、フロアに向かって一礼した後、前を向き)三重県伊賀市から来ました。Hと申します。昨年度からこのフォーラムに来させてもらっています。(元気よく)先ほど、A先生の方からR君の話が出ていたので、その話をさせていただこうかなと思います。昨年ここに来させていただいて、Cさんの方から愛知の3人の話をさせていただいて、平日仕事があるのにここに来ていている若者がいて、夜も興味があつて懇親会も出させてもらったんですが、また、その愛知からの若者が、熱くて熱くて(楽しそうに)たまたま飲み屋でつながったという関係性なんですけど、その懇親会の中でも、泣くわ泣くわ、泣きながらギター弾くわ、泣きながらギター弾きながらサライを歌っているわって。

そのR君が、私は三重県で隣の県ということもあって、メールがチョコチョコ来て、「いっぱい教えてくださいよ。」「勉強させてくださいよ。」「資料くださいよ。」と言ってくれました。そして、知らない間に、うちの地元にも人権センターというのがあるんですが、「地元の人権センターに行ってきましたよ。」というメールも来ました。そんなつながりの中から、どんどんやっていくっていうことがすごいなと思わせてもらいました。

(気持ちを切り替えるように)今日は、どうしても語りたことがあつてマイクを握らせてもらったんですが、人と人がつながるっていうことなんですけど、三重と徳島のつながりということでどうしても語りたことがあります。私の地元のあるおばあちゃんのことをしゃべらせてください。

(切々と語りが続く)A先生にもうちの三重県に来ていろいろ語ってもらっているんですが、うちの三重から徳島に来て語っている、本人に了解を取っていませんので、Mさんとしておきますが、三重県ではよく話をしてもらっている方です。私の地元の尊敬する先輩であるそのMさんが、自分自身の被差別の体験のことに加えて、識字に通っている自分のおばあちゃんのことについて徳島で語られる機会があつたんですが、それを聞いた徳島のその学校の中学生が、Mさんとおばあちゃんに手紙を書いているんです。

その手紙に書いてあつたのは、「自分は保育士になりたい。でも勉強嫌いやし、高校に行くのはもうあきらめます。でも、識字教室で頑張っているおばあちゃんのことを思いながら木曜日だけでも勉強したいと思っています。」というものだったんです。それに70歳を超えて文字を覚えたおばあちゃんが、必死に鉛筆を握って、返事を書いて、「15歳で人生あきらめたらあかん。(その女の子はゆかちゃんという名前なんです)ゆ

かちゃんが高校生になるのを楽しみにしてるで。」と手紙を送るんです。

その手紙に答えて、ゆかちゃんは、「なんかしらないうちに勝手に勉強してしまって、期末テストで点数が上がった。」そんな手紙をおばあちゃんに送ります。そして、3度目の手紙には、「頑張って受験をして高校へ合格した。」4度目の手紙には、「高校で珠算のこととか勉強してる。」5回目の手紙には、「珠算頑張って、高校で徳島県の代表になって、全国の珠算大会で6位になった。」6回目の手紙には、「高校2年生になって、珠算の全国大会で頑張って、全国で準優勝した。」と書かれていました。

Mさんは、ゆかちゃんが高校に受かっただけでもうれしかった。それでも、うれしいというだけなんだけれども、おばあちゃんは、識字教室の仲間と一緒にそのゆかちゃんから来た手紙に向かって、「良かったな！！ゆかちゃん、頑張ったなあ。拍手！！」とみんなで拍手をして、手紙に語りかけているんです。

そのMさんは、教師をしているんですが、「教師の自分が人にパワーを与えることはできていないけれど、うちのばあちゃんは本物の先生だと感じた」と言われます。そのおばあちゃんが70歳を超えて文字を覚えて、文字が読めるようになって、一生懸命勉強して、「かぼくん」という絵本に出会います。自分の子どもにはできなかった絵本の読み聞かせを、Mさんの子ども、自分にとってはひ孫に読み聞かせをしたいと言って、識字教室のときに一生懸命練習して、練習して、絵本を家に持って帰ります。帰ってからも何度も練習して、たどたどしい読み方ですが、30分くらいかけて「かぼくん」をひ孫に読み聞かせをします。

(一言一言を大事にしながら)そんなことが三重県の人権教材の中で紹介されていて、識字のこととか、それを知っていくことによって、自分のことを見つめて語っていくということが行われています。三重県でもいろんなところで教材として使われています。実は、このおばあちゃん、トラさんというんですが、今年6月末に亡くなりました。104歳です。三重県だけでなく、この徳島を含めていろんなところで元気を与え続けたトラさんが、亡くなられて、ものすごく残念です。

(身振り手振りを加えながら)R君も来てくれたうちの地元の人権センターで、木曜日に識字教室をしているんですが、その識字教室の隣で今細々ながら、いわゆる地区外の地元の60歳台くらいのおっちゃんたちを集めて、人権学習をして、地元の子どもの学びを伝えているんです。子どもたちに学ぶことはいっぱいあって、トラさんが亡くなられてから2週間経ったときに、その学習会に私は絵本の「かぼくん」を持って行って、「読み聞かせしたことある？1回読んでみて」と言うと、絵本を見ながら「懐かしいなあ」と言ってくれました。

トラさんの話をして、「もう一度読んでみてください」と言ったときに、隣で識字教室が行われていることもあり、涙で読めないおっちゃんがありました。でも、そのおっちゃんらは、地元で中学生は、そんな思いも含めながら学習をしているということを知りませんでした。トラさんの存在も知りませんでした。

地元にも、自分たちもつながりを作れていないので、知らないことがいっぱいあるんです。でも、知ってくれたら、「中学生いい勉強しているなあ。いいつながり作っているなあ。俺ら大人が地元でそんなつながりを作っていかなとあかんなあ。子どものために。大人のために。」とそんなことを話してくれました。

いろんなところで、人の思いを知っていくことはつながることにも大事だし、そんなつながりができてきたら素敵な世の中になっていくのかなと思っています。去年のR君のつながりなども思い出しながら、この場でトラさんの話をしたかったんです。よければ皆さんと、トラさんのご冥福をお祈りしたいなと思ってご紹介させていただきました。ありがとうございました。(拍手)

## 《コーディネーター A》

(思いを込めて)徳島で何度もMさんは講演をしています。Mさんの語りを通して、おばあさんのトラさんの言葉、ゆかちゃん言葉が心に残っています。人というのは、そういうつながりに力をもらって、やっぱり共感と連帯の絆の中で、人生は変わっていくと思います。幸せというのは、やっぱり私たちの心の内にあります。自分が好きになっていきます。皆さんの言葉が温かいものをつくっていきます。言葉が絆をつくっ

ていきます。そういう関係性が広がっていったらなあと思います。ぜひつながっていきましょう。(フロアでスッと手が挙がる)はい、どうぞ。

#### 《フロア K》

香川県三豊市人権教育課のKといいます。できれば、今の方とつなげた話をしたら一番いいかなと思うんですが、私もこだわって言いたいことがあるので、前の方の話とは関係ないんですが、そのことを言わせていただきたいと思います。

(一言一言を丁寧に力を込めて)『月間部落解放』という冊子があるんですが、その何月号かは忘れましたが、去年行われた第52回部落解放全国集会のことが、その冊子に載っていました。去年のその集会は岡山で行われたんですけど、その分科会の中で、「同和教育・人権教育の課題」の分科会というのがありました。

その分科会で、どういうことが「同和教育・人権教育の課題」として出されたかという、1つは、全国的なことですが、各学校で時間をとってやっているにもかかわらず、必ずしも子どもたちの意欲化、行動化につながっていない。それから2つ目は、部落差別という現実が、自分の身近なものとして子どもたちが実感できていない。主にこの2つが課題として指摘されたんです。

(力を込めて)当然、それを解決するためにどうしたらいいのかという話し合いもなされていました。その冊子を読んだ方は、おわかりだろうと思いますが、今日のテーマと一緒にですね。語り合いの学習。自分の思いを重ねていく学習。これ以外に課題を解決する方法はないだろうというような結論でした。

それで、私の三豊市でもいろいろ呼びかけて、小学校においても、中学校においても、語り合う学習というのは増えてきました。その点はいいことで、さらに、それをより確かなものにしていくために、A先生やY先生が中心になってやっている、徳島県の「人権を語る中学生集会」に参加しています。

三豊市はここ3年続けて参加して、参加する中学校の数も、中学生の数も徐々に増えてきています。自分たちが学校でやっている語り合いの学習をより確かなものにしたいという気持ちで、その集会に参加しています。それで、今年で3年目になるんですけど、集会に参加した方はよくわかると思うんですけど、意見発表する子がいて、その意見について全体で話し合うという集会の流れです。

3人の中学生が意見発表しました。3年間で初めて、部落差別に関係する意見発表が2人あったんです。もう1人は自分が受けたいじめのことをしゃべった意見発表でした。私は、期待したんです。きっとこの部落差別の問題を中心に意見が広がっていくだろうと思って期待して見ていたんですが、当日の意見の中には、そのことに関する意見が2～3出てきただけで終わりました。

結局、そのときに思ったのは、全国の課題と同じ様に、中学生集会に集まっている子どもたちにも、部落差別のことを語った子どもに共感できる、ひっかかるものがないのかな。いじめの体験にひっかかるものがないのかなということ、私は思いました。それこそ、板野中学校の全体学習を生んだ徳島県で、やっぱり全国と同じなのかなということ、思いました。

それでも、失望しているわけではありません。やっぱり、さっきの分科会の結論と同じように、思いを語り合うこと、その中で差別をなくしていく絆を確かめ合うこと。それ以外に解決する方法はないと思っています。

さっき、Dさんが、昔のような全体学習をやりたいけど、時代も変わってなかなか難しいというようなことを言われましたが、(苦笑いしながら)そんなに簡単に言わないで、もうちょっと粘り強くやってほしいなと思います。もちろん私も三豊市で、そういう輪をもっともっと広げていきたいと思っています。中学生集会に失望しているわけではありません。来年もそこで学びたいので、今年以上にたくさんの生徒を連れてやって来ようと思います。共に頑張りましょう。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

ありがとうございました。(身振り手振りを加えながらしみじみと)この会くらいではありませんか？部落問題を本気で語り合えるのは、四国地区人権教育研究大会に行っても、全国人権・同和教育研究大会に行っても、よほどの人が集まらない限り、部落問題を本気で語り合うということになっていきません。

私は、今、松茂中学校にいますけど、松茂中学校は本当にいい学校ですごく頑張っているんです。私が赴任したときに、2年間文科省の指定を受けて人権教育に取り組んだんです。子どもたちが育っているんです。その松茂中学校で人権教育のアンケートを4月にとります。そのアンケートの中に、関心がある人権課題は何かという質問項目があります。10数個の人権課題の中で、2年前のアンケート結果では、一番関心がない人権課題は同和問題でした。

(力を込めて)これは本当にショックです。どうするかといったら、D君も一番言いたいことだと思うんですが、教師が自らをさらけ出すしかないんです。Y先生が語ってくれたように、「スダチの苗木」という教材があって、それを子どもたちにきちんと届けていきたい。私自身のことをきちんと伝えていくという形で人権学習をしたときに、子どもは素直に言いました。

「先生、担任の先生が部落の人と聞いて、ショックを受けない生徒はいないと思います。」

そこから入っていくんです。(身振り手振りを加えながら)言えば、それまで遠くのこと、昔の話、ないことだったのが、目の前にあるということがわかるんです。そこから子どもたちが変わっていくんです。語りの質が変わっていくんです。1年間で7つの語り合いの記録がまとまりました。教室で、若い先生にカメラを回してもらって、マイクをまわして、みんなにしっかり聞こえるように、みんなの前で語るという学習をしたときに、それが子どもたちにとって誇りになるし、よろこびになるんです。

そのときの生徒が、おばあちゃんとお母ちゃんとの場に来て、語ったことがあります。その本気で語ったことというのは、生きる力になったし、それが大きな財産になりました。それを通して人とつながっていく力になります。

出会ってないというか、学んでいないんです。教えたつもりになるけど、本当に心に残る学びになっていないんです。一生懸命教えますよ。説明しますよ。それは大事なことです。でも、その学んだことを、自分の言葉で自分自身のことを、家族や仲間や、地域社会で語る。それに返す。そのやり取りの中で、子どもたちの関係性や子どもたちの生き方などが揺さぶられていくし、自分に何が問われているのかを考えていく学びになるんです。

それが、今日ここでマイクをまわしていく意味だと思うんです。みんなで自分のことを語っていく。安心して自分のことが言える。そういう教室を作っていく。いろんな人権課題があります。そのことを通して、学んだ自分自身を問うていくんです。そこにこの学びが誇りになるし、よろこびになっていくと思います。では、つながっていきましょう。(前からずっと手が挙がる)どうぞ。

## 《フロア S》

(立ち上がり、フロアの方を見ながら)すみません。今年も鳥取県から来ました。(親友たちに思いを馳せながら)今日の前におられる3人のつながりをずっと何年間も見てきながら、私はやっぱり亡くなった親友たちのことが重なります。私はその親友たちと出会った時に、部落の中において、こんな素敵な、こんなに人を大事にする、こういう仲間ができたことを本当に誇りに思いました。

自分のことは置いてでも他人のことを一生懸命する。頼まれたら夜中でも、その人のところに行って相談に乗る。こういう生き方っていいなと思いました。でも、彼女たちからいつも言われました。「あなたは私たちの希望なんだ。」そして、私といろんなことを語り合う中で、「ああ、自分もしゃべってもいいんだなって思った。それまでは、自分が部落出身だとか、部落問題のこととか、なかなか多くの人には語れなかったけれど、でも、語ってもいいんだなと思えた。」とってくれました。

(自分の思いを通してフロアに問いかけるように)でも、私は思います。私を希望なんだとしか言えない社

会って何だろうかな。部落外にいる私が、本気で部落の仲間の思いに重なり、聴き、受け止め、この受け止めた思いを自分の立場からいろんな人に届けたいなど、自然に思えだしてきた。この生き方を一人でも多くの自分の地域の人に届けていって、自分とつながる仲間を一人でも増やしたいなど思いながら、ずっとここまでできました。

私を認めてくれる仲間の中には、共感して、「Sチルドレンだ」と言って活動を続ける仲間も出てはきました。けれど、多くの人の中で、特別な人、異質な人と思われてしまう。そういう社会の中で、これからも1人からでも耕していきながら仲間を増やしていきたいなと思います。

(気持ちを切り替えるように)それから、先方、部落差別が遠いことのように思われてしまうということがありました。うちの地域では、昨年度、部落差別解消推進法ができて2年目で、この法律の周知を強化しようという取り組みが強められていることを受け、倉吉で同和教育町内学習会と言っている小地域懇談会で取り上げました。

(力を込めて)映像を通しながら、今もこういう差別が実際にあるんだということを、地域全体の一つ一つの村で、地元の人権文化センターの職員に全ての村で丁寧に説明してもらった中で、「今も差別がある」ということを知ってもらえたということが大きかったなと思います。

参加された方の中に、「これまで同和問題の学習で、今年のようなわかりやすい学習をしてもらったことがなかった」という感想があったのは、私たち、3～4年に一度は部落問題を散り挙げながら、15年間やってきた主催者側にはちょっと切ないものもありましたが、やはり、こういう映像とか、目に見えるものとして訴えていくということの大切さも感じました。

紙資料とか文字で伝えることの限界も感じながら、これからも、こういう差別は今もあるんだということを感じて、では、この「ある」ということに対して、自分たちがこれからどうしていったらいいのかということを考えていく場を、これからも広げていきたいなと思います。終わります。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

部落外だから言えること、部落に生まれていないから言えること、そのことを通して自分の言葉で伝えていく。学んでいく。そのことが問われていくんだと思います。(後ろの端から手が挙がる)では、いきましょうか。

#### 《フロア U》

島根県松江市から来ました。(発言者が話しかけると、コーディネーターから、松江ってわかりますか？島根県ですよ。会場に明るい笑いの起こる中、笑顔で日本海です。はい、いきましょうと声がかかる)Cさんのお話を聞いて、すごく共感ができて、ぜひ話したいなと思って手を挙げました。

(一言一言を丁寧に)A先生に出会ったのは、今から15年ほど前なんです。浜田市立第三中学校というところに勤務していたときに、その学校は島根県の中で最初に人権集会というのを始めた学校です。私が入権集会を担当したのは、人権集会を始めてからちょうど7年目だったわけです。

7年目くらいになると、人権集会を始めた熱い思いを持った先生方が、どんどん転勤していかれて、いなくなっていくって、さっきの話と同じように、すごく熱のある先生と、そうではない先生とがいる中で、人権集会をどう運営していくかなということでも悩んで、そのときに、校内に熱のある先生が何人かはおられまして、つながりを作って、子どもたちにとって少しでもいい環境をつくりたいということで、味方をちょっとずつ増やしていきました。

(ニコニコとフロアにまなざしを送りながら)A先生にもわざわざ島根県の浜田の方まで来ていただいて、子どもたちともかなり本格的な話し合いができました。校内だけでは苦しいことがいっぱいあったので、校外に味方を作るというところで、市内の同和教育担当の先生方や、市の人権教育課の職員の方と担当者会で、

今日みたいな形で、「校内でこんなに困っています。みんな動いてくれない」などと言いながら、「ああ、それはこうしたらいいよ」などのアドバイスももらいながら、何とかやってこれたかなと思います。後は、同和地区のお母ちゃんたちの会(べっぴんの会)にも行って、いろいろアドバイスをもらったりして、自分の学校外のいろんなネットを持ったりとか、いろんなエネルギーをもらって頑張ってこられたかなと思いましたので、何か参考になればと思いました。

(軽くお辞儀をしながら次の言葉につなぐ)今は、松江で転職をして、バスの運転手をしていますけど、職場の中でもいろいろ気になることがあって、周りにも不平不満を言う人がいっぱいいます。こんなところが嫌だとか、腹が立つとか、いろんなことを言いますが、今やっているのは、「うちの職場は周りの人が言っても変わらない。ずっとこうだから」と言う人がすごく多いです。僕は、この職場に変わって4年目なんですけど、仲間づくりをしています。同じようにおかしいな。変えたいなと思っている心ある人とつながりを持って、こうやったら改善できるんじゃないかなと思って、改善案をここに提出したらうまくいんじゃないかということ、4年目にして、やっと少しずつ周りに仲間を作って、心ある人とつながりを作っています。

(ニコニコと)僕は、A先生と出会って、一番よかったと思うのは、僕も教員をしていましたので、同和教育を勉強して、部落差別をなくすということもあるけれど、人としてのより良い豊かな生き方を目指すということは、勉強していました。A先生と出会って、決定的に何が変わったかということ、何度もキーワードに出てきていると思うんですが、自分の言いたいこと、思っていること、言いにくいことを言える場所だったり、人間関係づくり、つながりが大事だよということを学んで、それが、今の職場でも少しずつ生かしているかなと思います。A先生と出会って15年になりますけれど、本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

ありがとうございました。実は先週、人権を語る中学生集会有りましたが、その前日に、U先生から、明日の中学生集会に行かせていただきたいと連絡をいただきました。来てくださいと言ったんですが、実はお母さんと一緒に行きますということで、お母さんは車椅子なんですけど、中学生集会の会場、鳴門市人権福祉センターはエレベーターがないんです。会場が3階ですから、今年来ていただくことができませんでした。

(ニコニコと)8月2日に鳴門市でフォーラムがありますと言ったら、うずしお会館は車椅子OKですので、今日お母さんと一緒に来ていただきました。本当にありがとうございます。皆さん、拍手してください。(会場に大きな拍手が起こる)

こういう人のつながりって本当にありがたいです。どれだけ力をもらうか。どれだけ励まされるか。いろんな現実を私たちは生きています。人間というのは、信頼し尊敬し、互いの存在を本当に大切にしながら、幸せが自分のものになっていくんだと思います。そんなつながりが広がっていけばと思います。では、つながっていきましょう。挙手をお願いします。では、さっきから手を挙げているYさん、いきましょ。

#### 《フロア Y》

語る人と語る人との間のA先生の話が長いので、思わず手を挙げてしまいました。先ほど3人の話の中に出ていました、泣いてばかりで授業をしていましたYです。石井町から来ました。石井町から来るのはやっぱり、しんどいな、遠いなと思って来ました。三重の方から、島根の方からいらっしゃった皆さんのパワーを思うと、人権学習って、自分の中に力をもらえるんだな、遠くからでも来ようというパワーになるんだなと思いました。

(当時に思いを馳せながら)25年前、この前にいらっしゃる3人のパネリストの子たちが中学生でした。25

年前にA先生と出会わせてもらって、私がちょうど前の3人の年くらいでした。38歳位のときに、板野中学校の素晴らしい子たちと出会わせてもらって、私は、それまで自分のことがあまり好きじゃなくて、いやいや、子どもたちに何かさせること、教え込むことばかりやってきた教師でした。

教師というものの魅力はあまり感じていなかったんですけど、板野中学校で初めて自分と向き合えた。私で言う、本当に宗教のようなものでした。本当に毎日毎日A先生と話しをする。こういう素晴らしい子どもたちの前で授業をする中で、自分が自分の心をのぞいていく。自分の生活を見つめたり、自分自身を見つめたりできた日々でした。3年間、この子たちと生活ノートなどをやり取りする中で、今までとは違う、それまで教師って何か嫌な言葉なんですけど、自分の生き方を見つめ直さないといけないと思うようになりました。

今でも、生きていく中で、C君の言葉が響きます。「先生、輝いていますか？」彼が中学校のときに私に言ってくれた言葉なんですけど、ずっと、「私は輝いているんだろうか」ということを思いながら、教職を続けてきて、今も、一度退職したんですけど、また、何か伝えることがあればと思って、D君の言葉の中にあった自分にできることということで、生徒たちの前に立っています。

(切々と)退職して、教職を離れると、今までなかった時間ができて、自分の周りの地域から、いろんな役をしてくれとか、自治会の仕事をしてくれとか、神社の世話をしてくれとか、いろんな仕事が舞い込んできました。

本当に地域とのつながりが全然なくて、学校と家との往復ばかりで、地域のことをほとんど知らなかったです。自分が自治会の担当する30数軒の家のことも全然知らずに、毎日偉そうなことを言って子どもたちの前に立っていたんですけど、自分の周りが少しずつ年とともに変わって、退職と共に大きく変わって、考え方も、見る範囲も変わってきたんですけど、やっぱり根底になるのは、「輝いていますか?」「今、自分にできることができていますか?」という、板野中学校で出会った子どもたちからいただいた言葉があります。

今、自分にできることはしっかりやろう。こんな私でも、必要としてくれる人がいるんだったら頑張ろうという気持ちでいます。また、生徒の前に立っていますが、先方D君が言ったように、昔と違っているところがいっぱいあります。子どもたちも段々変わっていると思います。前の子どもたちとは違うなあとか、SNSとかで、すごく心を痛めている子どもたくさんいるし、家庭環境も大きく変わっている子どもたちもいます。その中で、私ができることってどんなことなんだろうかと考えながら、私には、まだまだ伸びしろはたくさんあると思いますし、成長しなくてはいけないなと思っています。

25年前に、D君、C君、B君と出会って、その他にもたくさん素晴らしい子たちがいました。その子たちにときたま会うんですけど、みんなすっかり私を追い抜いて、自分だけが精神年齢がとどまっているという感じです。だから、こういう場に来て、パワーをもらって、また明日からの力にしていこうと思っています。(コーディネーターに)A先生もフォローはいいので、次の方にマイクを回してあげてください。(会場いっぱい爆笑と共に大きな拍手)

## 《コーディネーター A》

(明るい笑いの中で)すみません。ではつながっていきましょう。はい、どうぞ。

## 《フロア M》

今日はありがとうございました。香川県三豊市から来ましたMです。この人権地域フォーラムは、一昨年参加させてもらって、そのときも感じたんですが、やっぱり、今日来てよかったなと気持ちが温まって、他の人権同和教育の研修では味わえない思いを、今日味わえたな、これがエネルギーになるんだなというのを思いました。

ただ、自分自身は最初、本音を語るということがすごくまぶしかったり。今も、人とつながるということ

がまぶしいんですが、人権同和教育を進めるときでも、僕はどちらかというと、突っ走りがちで、周りの人に調整してもらおうというのが、どちらかというと自分のやり方なんです。つながりがまぶしいうちはまだまだいかなんか思っていて、本音を語るというのは、自分の中ではしっくりなってきたりしているなと思います。つながるは、まだまだ自分勝手なところがあって、突っ走って周りのことを考えてないなと思ったり、難しいなと思いつつやっています。

(自分の歩いてきた道に思いを馳せながら)振り返れば、自分は香川県の坂出市で教員になったんですが、あの頃、生徒との関係で、自分も不器用で疲れ果てていて、職員会でよくうとうとしていました。くらくらしながら寝るのをだんちろうと言うんですが、先輩の先生から「だんちろうのM」というニックネームを付けられてきたということもあったんですが、A先生が坂出市のホールで語られたときには、こんな熱い方がいるんだと思って、これだけ人権同和教育というのはすごく大事な問題だなと実感したことを覚えています。

ただ、そういった中でも、自分自身が坂出のときには人権同和教育と関わっていたんですけど、転勤の中でなかなか関わるのがなく、地元の三豊市に戻って来てから、話をしてくれたK先生との出会いなどを通して、再び人権同和教育と接することができるようになっていく中で、自分の中に、心の中に解けていく部分がありました。

今、Y先生もおっしゃったんですけど、僕もどちらかというと、自分の思いを生徒に押し付けていくような教員だったなと思います。そういうところが強かったんですが、ここ数年、自分自身が押し付けていくんじゃなくて、生徒の気持ちを聞いて考えて…、僕の接し方はまだまだ足りないと言われると思うんですが、今日も、Cさんが保育所のことを語ってくれながら、自分も、その園長先生と同じような面があったんじゃないかなと思いました。

自分も一人の親となりながら、やっぱり自分の子どもを見てくれる、愛してくれる、大事にしてくれた小学校の先生とか、そういうことを考えながら、改めて人権教育ってやっぱり大事だなと思います。一人一人の人間として生徒を見て、生徒の気持ちに近づいて、寄り添うというのは、僕はまだ照れくさくて、近づいていくという程度なんですけど、そういうことを少しずつ味わっていきながらやっていきたいなと思います。

(力強く)ただ、容認したくないのは、「今の時代に難しい」ということがあると思うんですけど、なんでも周囲の環境のせいにしたくないので、今の時代の中でも、やはり、語り合っていく学習というのはすごく大事なので、三野津中学校でも、去年初めて人権劇を生徒にやらせてもらって、生徒も一生懸命やってくれて、語り合ったことをもとに、今年、A先生に三野津中学校に来ていただいて、授業をしていただくことになったんですけど、それを発展させていって、少しでも人と人が話し合っていく、こういう空気感の気持ちよさというのを三野津中学校の生徒にも味わってもらい、自分もちょっとずつ進めていきたいなと思います。数年後、つながりの意味がわかりましたと言える教師になりたいなと考えております。今日はありがとうございました。(拍手)

## 《コーディネーター A》

続けて、どうぞ。

## 《フロア M》

三豊市人権教育課のMです。今日、A先生と3人のパネリストの皆さん、ありがとうございました。私は、この人権地域フォーラムというのに初めて参加させていただきました。皆さん方が、それぞれご自分の今までの生き様をしゃべられてきたということで、私どもも、自分のことなんですけど、話させていただけたらと思います。

今は、私は三豊市なんですけど、合併前の高瀬町という町役場に行政職員として就職したんです。正直、同和教育・部落差別については、無知無関心でした。どちらかと言ったら、刷り込みや思い込みにより「やや



こしい問題だ」というふうに考えておりました。

今から30年前なのですが、当時、高瀬町に同和教育課が初めて新設されたときに、私が最初の職員として異動になりました。正直、初めは私は、「なんかややこしいなあ」という思いだったんです。当時、結婚しておりましたので、家に帰って、連れ合いに「同和教育課の方に人事異動になってしまった。」と少し、声のトーンを下げて言いました。そうすると、連れ合いに、「別にいいじゃない。あまり関係ないよ。」と言われたんです。関係ないよというのがどういう意味で連れ合いが言ったかということが、このときには分かりませんでした。

私は同和教育課で5年間、運動団体のみなさんと連れ合いといるより長い時間毎日いることを過ごして、ほとんどを差別の問題と関わっていました。私は他人としゃべるのが好きで、当然、家に帰ってもその話をしておりました。数ヶ月たったときに連れ合いに変化が生まれたんです。皆さんは、連れ合いに理解が出てきたと思われると思います。正直、逆になってしまったんです。「同和问题、部落差別ってそんなにややこしいもの？」と言い始めたんです。

毎日毎日、私が連れ合いにそういうことを伝えることが、逆効果になって、「そんなにややこしいんだったら、私は、もう…」という感じになってしまったんです。そこで、私自身のまだまだ中途半端な知識では、正確に連れ合いに伝えることができず、わかってもらえないという腹立たしさも生まれて、今で言う人権福祉センター、当時の隣保館です。そして児童館での行事に、できるだけ連れ合いと一緒に、そして、子どもと一緒に参加をしました。地域の方々や、いろんな方がおいでになる。そういう中で、様々な話をすることで、結婚して今26年経ちますけれども、やっと同和问题、部落差別について、きちんと正しく理解をしてもらっています。

本当に、自分の経験からですけど、「全国人権・同和教育研究大会」の中でも、「部落差別の現実に深く学ぶ」と言われますが、様々な方とお話をして付き合うことによって、人の意識は絶対変わるものだということが、私自身の体験からはっきり言えます。さらに連れ合いの意識もそういうふうに変ったということで、「部落差別の現実に深く学ぶ」ということが、どれだけ重要かということをも身にしみて学びました。

行政職員として、一人だけで闘うよりは、先ほどから皆さんがおっしゃられている「つながり」、本当に1人の100歩より100人の1歩、その通りです。しかし、行政職員の中でも、まだまだ、同和问题、部落差別、人権問題について、いろいろ偏見を持っている人も多くいます。ですけども、きちんと理解ができて、絶対なくしていかなくてはいけないと思っている職員もおります。だから、そういう人間とつながって、少しでも多くの正しい知識を持った人とのつながりをめざして、これからも頑張っていきます。

一番は、同和问题の解決です。本当に私はそう思います。それで、先生もおっしゃられた、共感のできる人間をつくり上げて、言うだけではなく、実際に行動に移して、どれだけ怒りを持てる職員をつくっていかれるかということが、自分自身のこれからの、もっともっと努めていかなければならない大きな課題だなと思っております。

今日は、初めて参加させていただきましたけれども、パネリストの3名の方々のお話、そして、フロアからの皆さま方のご意見を聞くことが大変うれしく思います。これを地元を持ち帰って、行政職員として、同和问题の解決に向けて勤めてまいろうと思っています。本日はありがとうございました。(拍手)

## 《フロア H》

失礼します。高松の鶴尾中学校のHです。昨年も来させていただいて、Sさん、本当にありがとうございます。A先生とはつながりはもう25年で、Cさんは去年来たときに、家に帰っていろいろ調べてみましたら、僕が板野中学校の全体学習を観に行っている年でした。ちょうど2年の担任をしたときで、今年41歳…。違いますか？

(フロアで爆笑)ごめん、ごめん、イケメンだなと思って。B君みたいな、いや、イケメンじゃないと言っ

ているんじゃないんです。38歳？ああ、違うか。…もう一回考えます。(フロアに再度爆笑)最初は1995年に観に行っただけです。皆さんおられましたか？(パネリストから「2年だった」と声が返る)やっぱりそうや。(会場爆笑)

僕は、鶴尾中学校で勤めて、12年いて、10年あけて、また帰って来て、4年目になります。まあ、25年前から鶴尾中学校に勤めているわけです。僕が鶴尾中学校に帰って来ると、ムラにまだいる子もいるし、外へ出た子もいて、その子らの子どもが教え子としているわけですね。中学生小学生がいっぱいおります。隣保館に僕が行くと、孫みたいな感じがして、子どもたちが集まっているときも、「ああ、頑張っているな」と思うんです。

その当時、本当に皆さんと同じように、僕もA先生の授業を観て、それを持ち帰って、それこそ鶴尾中学校で熱く語る授業、それから部落地区を何も恥じることはないんだという授業をして、その子たちが自分を語っていったんですけど、もちろん板野中学校のような授業はできなかったんですが…。

その語った子らが、その自信を持って卒業していったんですが、その後高校へ行ったり、大学へ行ったり就職したりしたんですが、なかなかそんなに強く生きられない自分もいて、中学校の語り合いの学習の場では語れるんですが、実際の場ではそんなに甘くはないんだということであったりとか、現実の中には、結婚差別にあっている子どもたちもいてですね、付き合うときに、自分のことを言わなくてはいけないと思うんだけど、そのときにどう返そうかとか、中学のときに堂々と生きると言っていた自分がいるんだけど、ずっと時間が過ぎると、いちいち言わなくてもいいんじゃないかと思うようになっていく自分もいたりとか、部落出身ということを使うべきかどうかとかというときに、答えは何だろうかということもずっと突き詰めません。

今、鶴尾中学校に帰ったときに子どもたちがいて、差別の現実正直そんなに変わっていないです。今幸せに生きていますし、頑張っているんだけど、そこに至るまでの、結婚のときであったりとか、差別を受けた現実そんなに変わっていないです。そこに切なさとしんどさを思いながら、今、鶴尾中学校は若い先生方が多くて、うちでは「仲間の集い」と呼んでいるんですけど、全体学習をA先生と出会ってからずっと続けています。今もちろんそうです。年間7回くらい続けているんですけど、それが、昨年言ったように、後1年半で鶴尾中学校は閉校することが決定しました。その思いやそういう思いを持っている教員たち、それから、小学校はあるんですけど、鶴尾中学校はなくなります。D先生のように教え子が教師になっている子もいて、鶴尾中学校に帰りたいたいと思うんですが、もう、帰る場所がなくなります。教員については、もう出て行くだけです。今は、2年生3年生合わせて全校生徒35名の方がいるんですけど、その中にはいろんな思いがあって、同和教育についても、牽引してきた自負もあります。

その中で、去年ここで話をさせてもらって、Sさんなどからも励ましていただいて、帰って校長先生にもお話をし、最後のまとめとして全国人権・同和教育研究大会でも報告してみませんかということで、今年、三重で報告させてもらうよう手を挙げました。先ほどもありましたが、そこで熱い語りをつながりをもう一度したいと思いますので、パネリスト3人の方は、土曜日曜なので来てくれると思うんですけど。(フロアに明るい笑いが起こる)つながりあって広げていきたいなと思っています。今日は本当にありがとうございました。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

続いていきましょう。どうぞ。

#### 《フロア F》

今日はありがとうございました。(笑顔で)ドキュメンタリードラマを長期にわたって見ているようで、温かい気持ちになりました。小豆島の土庄中学校のFと言います。A先生とは20年近く前からお付き合いさせ

ていただいているんですが、やっぱり僕も、目の前の子どもたちが、学校へ行きたくないとか、勉強嫌いだとか、いろんな現状があったりして、一緒に考えてきたんですが、子どもたちの生活や背景の中に、部落問題とか、その悪影響からくるいろんな二次的なことなどがいっぱいあって、それをどうやって一緒に考えていこうと頑張るんですけど、なかなかうまくいかなくて、ムラの子も自身が自分のことを胸を張って言えなくて、周りの子どもたちは、部落の問題だと思っていたり、そういう流れの中でいろいろやってきました。

本当に仲間をつくるしかないかなと思って、A先生や徳島の方が全体学習をしているというのは知ってはいたんですが、自分たちとはちょっと違うんじゃないかとか、そんなことができるのかなみたいなのところもあったりして、その中でA先生に相談したところ、「1回行って、やってみようか」という話になりました。

そのときに、C君は時間が合わなくて来られなかったんですけど、A先生とB君と、D君の3人が来てくれて、この3人がうちの学校で語っている姿を見て、うちの先生方も子どもたちも気づいたというか、こんな空気感の中でこんなことを語っていいんだとか、こんなふうに自分のことを伝えていいんだという姿を見て、当時の子どもたちが、30分、1時間と経つうちに段々高まってきて、その授業の自分の思いを語っていた最後の最後に、「じゃあ、後何人」となったときに、ザーッと手が挙がりました。

自分のことを語る中に、「実はそうです」と、普段言わないことを言ったりするような語りとなっていきました。それからちょうど13年になります。ですから、小豆島が本気で部落問題を語り合えるようになって13年になります。私たちにとってもあの会が大きなきっかけだったなという感じがしています。

その後、私は、隣の土庄中学校へ転勤になり、それに近いようなことを細々とやり始めたんですけど、町の中で、子どもたちがそういうふうに語っている姿を町の人に見せることで、何か変えられないかという提案が周りの人たちからもあって、町の「人権フェスタ」という形でやり始めて、今、10年になります。

子どもたちが自分のことをうまく見つめられていないのかなとか、差別が前よりも見えにくくなっているのかなとか、今、いろんなことを思いながらやっているんですけど、とりあえず、やり続けるしかないかなと思っています。

子どもたちは、中学生時代は一生懸命考えて語って、気持ちを新たにしているんですけど、次の学校へ行ったりとか、社会に出たりすると、厳しい言葉がいっぱい出てきたりとか、学校で勉強しても家に帰ると、「それはきれいごとやろ。そんなん言っているけど、世の中そんなに甘くないよ」と思いをひっくり返されたりとか、いろんな現状があります。

でも、今日思ったことは、中学時代とか、高校時代に本気で語ってつながったという体験したことは、それは、ずっと長い人生にとって支えになるんだなと思いました。そういう姿を見ました。今日は、長いドキュメンタリードラマを観ているような気になりましたし、とにかくやり続けることしかないかなと思いました。

うまくいったりいかなかったり、よかったり失敗したりすることもいっぱいあるんですけど、やり続けることしかないと改めて思いました。私自身も、日々の忙しさにかまけてモチベーションが下がっているんじゃないかなと自分で反省したり、また、明日から頑張ろうと思います。また、よろしく願います。(拍手)

## 《コーディネーター A》

(手の挙がった人に)最後です。どうぞ。

## 《フロア I》

Iと言います。涼しいクーラーの中、3人のパネラーの皆さんの話し、そして会場の皆さんの話を聞き、心が温かくなりました。ありがとうございます。僕は、教師でもないの、一般の人という形でお話しますが、「人権フォーラムに行くよ」と妻に言うそうですね、「何でそんなところに行くの」という話になるんです

が、いろんな話をするんですが、先ほどの発表された方ではないですが、僕らの夫婦の中では、そこがうまく伝えることが難しく、お互いが生まれたところも違いますし、生活も違うという中で、なかなか意見が合わないというところですね、このフォーラムとか、人権の発表を通じてですね、妻と話をするところがあるんですが、なかなか難しいところがあります。皆さんもこのフォーラムに出席するということで、身近な人、それから家族の方といろんな話をされていると思うんですが、こういう風に話をしたよとか、こういう話をすると、人権のことでお互いの理解を育むことができるということがありましたら、後からでもいいですから肩をたたいていただいて、お話いただくと、うちの家族のこういう人権の話の糧になるかと思えますので、話をさせていただけたらと思います。

今回、パネラーの方の話を聞いて温かくなったところもあるんですが、空回りというA先生の話もあって、Bさんの話があまり聞けていないんですけど、テレビか何かを観たときに、Bさんの奥さんが発表されてということがあったと思うんですが、そのときに、ご自身がそれを聞いて思われたことと、たぶん後で家族の方お話をされたと思うんですが、そういうところで、自分の力になったというところがもしありましたら、教えていただけたらと思います。

### 《コーディネーター A》

もう時間が来ていますので、パネリスト3人の話で終わりになるんですが、今話してくれたのが、原田彰先生にまとめていただいた『差別・被差別を超える人権学習』の中の、板野中学校で全体学習が始まったときの生徒I君です。(笑顔で隣に座るBさんに)じゃあ、いこうか。

### 《パネリスト B》

(ニコニコと元気よく)今日は勉強させていただいてありがとうございました。今日もここに来る前に早朝から一緒に農作業していましたし、結婚してから、妻のご両親、親戚の方皆さんが僕のことをすごく大事にしてくれるんです。僕、結婚する時に、自分の口から部落出身ということを言わなかったんです。

今日ここで話をさせていただくことに対しても、昨日もA先生に家に来ていただいて、妻も交えていろんな話をします。話できることは、育ってきた環境も違いますし、ほぼ価値観も違うんですが、話できることがよるこびといますか、意見は合うこともあったり合わないこともあったり、夫婦としてこういう問題について向き合って、良くしていこうと思えることが、今の僕の支えです。答えになっていないんですけど、差別は見えにくくなったり、いろんな問題はあると思うんですけど、基本はやっぱり、大人も子どもも関係なく、(力強く)自分がされて嫌なことは人にしない。もう、それに尽きると思います。

今日話をさせてもらっているように、相手の気持ちを思いやったり、想像力が持てる、学校現場であったり、教育現場であったり、夫婦関係であっても、本当にそうだと、今日こうして勉強させていただいて思いました。今日、こうして皆さんのお話を聞かせていただいたことを持ち帰って、これからの人生を、子どもに対しても、周りに対しても、自分自身にも、キラキラ輝いて、自分っていいなあ、こうして生活できることが楽しいなと思えるような、私自身でありたいなと思わせていただきました。本当に今日は勉強の機会をいただいて、本当にありがとうございました。(拍手)

### 《パネリスト C》

あまり長くならないように気をつけます。先ほど愛知のRの話が出たんですけど、当初、この会場に足を運んでくれるという話だったんですけど、仕事のほうが忙しくてということでした。先日、電話で2時間ほど話をしまして、お互いの悩みなども話をして、Rが、「最近、同和問題のことに対して日常に落としこめてないんだよな」という話をしてきました。

そんなに、日常に同和問題がごろごろ転がっているわけでもないですし、わざわざ自分から見つけに行く

ようなことでもないんですけど、Rは、それで活動ができていないと思っているんですね。そうではなくて、そういうことに常にアンテナを張って生きているということが、すごく大事なことであって、何かあったときに自分の中でどう整理してどう対処して、どう相手に対して理解できるようにしていくかということが大事ではないかなという、そんなやり取りをしました。

お互い、電話切るときには、「いつも支えてくれてありがとう。感謝してる」みたいな、彼氏と彼女みたいなやり取りをしているんですけど、今日のことはまた話をさせていただきます。8月12日にこちらへ来るので、この会のことをまた話をさせていただきます。

さっきの松江の人の話ですが、会社でいろいろあるんですけど、構外に出て勉強させてもらう機会も与えられています。その中で企業のことであったり、人権の問題であっても、それぞれ人権の尊重であったりという課題もありますし、その中でも、「誰一人取り残さない社会をつくるために」というテーマで企業も頑張っていますし、その中で、自分は同和地区出身だと言ってしまいそうになるんですけど、いろんな人と話をしていこうと思っています。

これは、個人的な話になるんですけど、(思いがあふれ言葉が何度も途切れながら、精一杯搾り出すように)昨日、ばあちゃんが倒れて、しんどい状態になり、昨日の昼間に入院したんですけど、頑張ってくれています。家族が病院に集まって。生命力がすごく、でも、今病院にいて地元の方に帰ってくることはできないだろうということです。

鳴門の会社に電話がかかってきて、鳴門から鴨島病院まですごい距離だったので、僕もある程度覚悟を決めて行っていたんですけど、おばあちゃんの思い出を考えながら、思い出しながら。その思い出の中で、すごくいい思い出ばかりなんですけど、一個だけ「あれっ？」と思うことがありました。小学校のとき、支援学級の子が家に来たことがありました。「ああいう子とは、遊ばれん」と言われました。僕は悔しかったですけど、それでも、大好きなおばあちゃんです。

(涙で途切れ途切れになりながら)今日、ここでパネラーとしてくる会があったので、「行ってくるよ」となったんですけど、親父ともいろいろ話して、まあ、しっかり行って話して来いと言ってきて、ここに送り出してもらいました。

夜も懇親会があるんですけど、今日明日の話じゃないからしっかり勉強して来いと言って送り出してもらいました。温かい家族で、兄貴も、お前がどういう生き方をしても家族やけん、お前のやりたいようにやれというふうに言ってくれたし。お前に反対したことはないというふうに送り出してくれるし、今日の朝も、おばあちゃんがこういう状態やけん、大丈夫やからと連絡をくれました。

部落かどうかというのも、自分が考えていく必要があるというだけで、Bともよく話をするんですけど、Bが、「Cが幸せだったらそれでいい」と言ってくれます。僕もBに同じことを思います。隣にいる人が幸せだったら、それでいいと思うんです。そうするためには、つながっておく必要があると思うし、嫌なことも言って嫌な気にさせるかもわからんけど、人に言うということはそれなりの覚悟が要ると思うし、その中でまた新たなつながりができると思うし、言いたいことを言うこともあると思うけど、その中でどうするかということを考えながら、頑張っつながりをもっとつくって、自分の思いを伝えたら自然と周りにも輪が広がっていくと思うので、皆さんとも、ここにきたことでつながりができて、幸せだったらそれでいいのかなと思います。終わります。個人的なことも話して、長くなってすみません。(拍手)

## 《パネリスト D》

失礼します。自分はC君と小さい頃からずっと一緒に、おばあちゃんにもずっとお世話になったし、C君のお父さんお母さんもいつも親切にしてくれました。陸上の試合の度に、お父さんがビデオを撮ってくれて、ダビングしてくれました。C君だけでなく、私も自分の子どものように見てくれていて、私が初めて6メートル跳んだときに、C君のお父さんやお母さん、おばあちゃん、お兄さんが、「Dやった！！」という感じ

で喜んでくれました。実は、その後、C君の跳躍があったのにお父さんが撮るのを忘れて、お兄ちゃんに「何しよるん」と突っ込まれている映像がそのまま残っています。

人権教育は、人と人とのつながりをつくっていく教育です。「それぞれの生まれ育った環境などは違うけど、どれだけ価値観を尊重し合えるか。」「お互いのことを尊敬しあって、それぞれの違う考え方の中で、お互いのよさを生かしていくことができるか。」だと思っています。実際に、この3人の根底に流れているものはたぶん一緒だと思います。でも、表現の仕方は、それぞれ違います。よく3人で、講演会などで話をさせてもらいますが、根底に流れている「仲間とのつながり」「人を大切にする」というところは同じで、その部分が人権教育の大事なところだと思います。

どのような人権問題に対しても、立場の違いはそれぞれあるかも知れませんが、しかし、その立場を越えてのつながりをつくっていくのは、本音の語り合いです。一人ひとりが、自分の心と向き合いながら、お互いに思いを語り合っていくことで、つながりができ、本当の仲間になっていくと思います。これから先、障害者差別であったり、男女差別であったり、様々な人権侵害にであったときに、支えてくれる仲間がどれだけたくさんいるかということが、大切だと感じます。そして、今日皆さんの話を聞きながら、「自分の人生をキラキラ輝かせていくために、学び続けていくこと」の大切さを改めて感じました。本当にありがとうございました。(拍手)

#### 《コーディネーター A》

本当にありがとうございました。あっという間の3時間でした。これでフォーラムを終わらせていただきます。(力いっぱい感謝を込めて)ありがとうございました。(フロアいっぱい大きな拍手)

#### 《司会者》

ありがとうございました。Aさん、パネリストの皆さん、本当にありがとうございました。

私自身も、『ドキュメント99』というテレビ番組にA先生が出演されているのを観て、教員になりたての頃、非常に興味があったことを覚えています。本日の最後、閉会に当たりまして、鳴門市人権教育推進協議会会長がご挨拶いたします。

#### 《鳴門市人権教育推進協議会会長》

(しみじみと、一言一言をかみ締めるように)A先生、それからBさん、Cさん、Dさん、本当にありがとうございました。私のほうで、何かまとめなければならぬと思うんですけど、思いばかりあつてうまくまとめることができません。とにかく本気で語り合うこと、それが輪を広げていくことなんだと、また、本気で語れることが自分が輝いていくことにつながっていくんだということだけ、私は今頭の中にあります。

このフォーラムは、A先生にパネラーやコーディネーターをお願いして、もう17年ということでございますけれども、鳴門市内、県内だけでなく、県外各地からたくさんの方がおいでいただいて、この会ができますことを大変うれしく、ありがたく思います。どうか参加された皆さん方も、それぞれ、自分から輝くために、これからも自分と向き合いながら、本音で語り合える仲間を一人でも増やしていきましょう。どうも、本日はありがとうございました。(拍手)

終了

#### 《参加者の意見・感想》

◎中学時代の語り合いが人生に大きく影響しているとききすごい質の高いことをしてこられたのだなと思った。私自身保育者であり、子ども一人ひとりを大切にと言っているところだが、保育者の中からこれはどうなんだろうという場面が多々あります。まずは保育者の意識からかえていきたい。(20代男性)

◎今日初めて参加させていただきました。私が今回参加しようと思ったのは自身があまりにも知らなすぎるなということ今年度、人権同和担当になって分かったので、少しでも“人権”について考えられたらなと思ったためです。小学生の頃から今に至るまで、人権については学習はしてきたと思うのですが、表面上のものだけだったように思います。模範解答は答えられても心の底から理解しようという気持ちは無かったかなと思います。

担当教員になって、人権・同和問題についてネットで調べました。でもそのことも差別の拡大に繋がるんだということ、校内で最初の委員会で見ました。自分の無知に冷や汗を流したのを覚えています。人権とは何なのか？一生考えていくべきテーマかと思いますが、このような機会を通して、少しでも理解を深めていきたいと思います。(20代男性)

◎13年ぶり(中学3年以來)に人権フォーラムに参加させて頂きました。その時もCさんがパネリストとしておられたことを今でも覚えています。人と人がつながること、語り合える環境、改めて大切だなと感じました。このフォーラムに参加する前は人権問題から遠ざかってしまっていたので、「わがごと」として様々な問題と正面から向き合っていきたいです。(20代男性)

◎根底にある思いを前向きで、自分を大切にするものにするような経験は、生きる力になると思いました。そのような経験は、自分の思いを自分の言葉で語ったり、相手の言葉を受け止めたり、人とつながったりすることだと思いました。それが実現できる全体学習の実施を、子どものために自分のために取り組みたいです。(20代女性)

◎会社の中での人権学習はまだまだ出来ていません。自分の会社でも平気で差別発言をする人、それを見逃す人、差別発言に共感する人がたくさんいます。自分のCさんと同じように会社の中でも人権学習をしたいです。(20代)

◎ありがとうございました。(20代男性)

◎フォーラムに初めて参加しました。小さい頃からたくさんの同和問題について学んできましたが、同和地区がどのへんなのか知らなくて、話がついていけない所が多々ありました。“板野町”のつながりということで、板野町は昔、同和地区だったのかなと解釈しました。

3名についての細やかな説明や、全体学習に至った経緯などの話を聞いてみたかったです。私自身、部落差別をしたこともありませんし、しているのを間近に見たこともありません。もし、そういった現状が残っているのであれば、悲しいなと思いました。無くなってほしいと心から思います。心に残るお話をしてくださり、ありがとうございました。(20代女性)

◎中身はもちろん、何よりパネリストの方々の思いがすごく伝わるすばらしい会でした。ありがとうございました。クーラーめっちゃ寒かったです。(20代男性)

◎今日のフォーラムに参加して、パネリストのDさんの「自分のために」「自分がキラキラと輝いて生きていくために」やっていくのだという言葉にとっても共感しました。ありがとうございました。(20代女性)

◎熱い語り合い…。学生時代、A先生と一緒に勉強したことを思い出しました。また、小学校の児童に学んだことを生かしていきたいと思います。ありがとうございました。(20代男性)

◎発言はできませんでしたが、胸いっぱい心いっぱいです。また、明日から自分を見つめ子どもたちの明るい未来をめざしていきたいと思います。ありがとうございました。(30代男性)

◎D先生や参加者が「自分でできる事をする」という考えは大事だなと思いました。また、仲間づくり、居場所づくりというのは部落差別解決には必要だなと思いました。(30代男)

◎参加者の方々、それぞれ熱い思いを持って人権問題について考えられてるということを知って、大変素晴らしいことだと思いました。私自身もこれまで人権問題について、学習はしてきましたが一学習としての認識でありましたが、今回のフォーラムを通じて、改めて人権に対する大切さを学びました。私自身も家庭で話し合っていきたいと思います。(30代男性)

◎過去3回参加したが、今回のフォーラムのパネリストの3人の話が最も印象的だった。(30代男性)

◎3人のパネリストの方、三者三様のお話の仕方、お話の内容でとても心に残りました。大学の時に先輩のDさんと板野の小学校にボランティアに行っていたことを思い出しました。あの頃も仲間を引っぱってくれる先輩でしたが中学生の頃からみんなをまとめていたんだなと思いました。私も仲間を大切に、何か(言葉にできないほどいっぱいあると思います。)を学んでこれからもつながっていきたくと思います。自分のことをすきになれるようにこれから日々過ごしていきたくと思います。(30代女性)

◎パネリスト3名の熱い思いがガラガラ伝わってきました。自分ができることを一つ一つ積み重ねていこうと思いました。(30代女性)

◎人権問題について3名のパネリストの方やA先生の話はこれからの取り組み方の参考になりました。「ひとつごと」ではなく「わがごと」として取り組みをしていき人々の自己実現が出来るようにしていきたいと思えます。本日はありがとうございました。(30代男性)

◎中学生の頃から、全体学習の中で自分の思いを皆の前で発表する経験をする事で自分と向き合い強い心をもてるのではないだろうか。自分のことを好きになり、周りに伝える大切さを感じた。(30代男性)

◎はじめて参加したのもあって主旨がなかなかつかめずしんどかった。すでにつながっている人たちの和に入りこんで一緒に思いを共感するには自分には時間がかかるなと思った。今回は部落解放人権に対する意見が多かったが、人権問題には他にもいろんな問題がある。子どもたちの家庭に関する人権・外国人や外国に対する人権等、自分の関心のある分野での人権教育に取り組んでいきたいと思う。(40代女性)

◎つながりあうことの大切さ！！同和教育のあたたかさ喜びをしっかりとつなげていくことがいいですね。本当にありがとうございます。A先生、本当に本当にありがとうございました。自分が教師としていや人間として自分のことを好きになれたのは、A先生のお陰です。目の前にはこれから幸せになるべき子どもたち人たちがいるのです。いつもいろいろな人から力をもらっていますが、本日はさらに自分を輝かせる力となりました。(40代男性)

◎人権教育・同和教育のなかには、人として生き方のなかの本質的なものがあるように思います。社会は変わっていくなかでも、変わらず大切にしたいと思えます。(40代男性)

◎パネリストの3名様とA先生の関係性にまず驚きました。学生時代に学んだことで自分が変わり、また、以降の人生にも大きく変化が出て、今も関係が続いているのってすごいですよね。

人生を変えた皆様のように、私の子ども達にも出会いに恵まれること。また私自身もそんな存在となって生徒と関わる事ができるように、考える機会を与えてくださったことをありがたく思います。今日は本当にありがとうございました。(40代女性)

◎中学時代の語り合い学習が、その後のつながりや生き方につながっていることが、今日のパネリストの方々から強く感じました。私も教員をしています、子どもたちがお互いにつながっていけるよう、地道に語り合い学習を中心としたなかまづくりを継続していきたいと思えます。(40代女性)

◎A先生と「全体学習」で学んだ生徒さんが社会人になられ、中学時代の時の学びがどのように今の生活に生かされているのか、そして悩みをもっているのかなどお話も聞くことができよかったです。特にCさんのお話には共感することが多くありました。

県外の方も多数いらっしゃり、“熱”のある参加者のお話も聞くことができよかったです。車椅子の母を連れての参加でしたが、会場の出入りやトイレ等、スタッフの方によくしていただき、とても助かりました。ありがとうございました。(40代男性)

◎こんな会が行われていたとは…。かわりに参加したこの研修、次からは自ら参加したいです。ありがとうございました。(40代女性)

◎3人の青年の熱い思い、絆がビンビン伝わってきました。熱をいただき、明日からまた頑張れます。ありがとうございました。(40代女性)



◎とても勇気のいることですが、語っていただくことはとても貴重なことであると思います。差別はダメ！！と言葉では簡単に言えますが、差別をしないことをみんなにしてもらうことは、とても難しいと実感しています。どうしたらみんなの意識を変えていけるのか…。若い世代に変わっていけば、同和問題も忘れられていき、自然消滅するのか？でも知らない人が何の知識もなく安易に差別・同和問題部落を知ってしまい、またそこから誤解の差別を生のでしまうのはあってはならないことです。だからこそ、人権・部落問題学習という教育をしっかりとしていくべきなのだと思います。

それは、大人も含め、みんながきちんと向き合っていくべき問題です。自身の体験したこと、思い考えを聞かせて頂けることは、真剣に向き合い考える機会を与えて頂ける最も重要なことだと思います。和とつながりを築いていきたいです。お話し頂き、ありがとうございました。(40代女性)

◎人と人とのつながりは大切だなと感じた。うまくしゃべることができなくても、本音で語ることができる安心感、つながりができたらいいなあと感じた。たくさんの方が本気で語り、つながるこのフォーラムに参加している方々の温かさを感じた。これからの自分が変わる気がする。会場寒かったです。(40代)

◎人権について勉強をし続けたいという思いが深まりました。ありがとうございました。(40代女性)

◎共感することを押し付けても共感を得られない。共感共通の足掛かりがなければ、相手を自分の内像化することは難しい。「共感してくれない」とは、相手に自分のことを理解する努力をしると聞こえる。相手の心に自分との正の共通項(心の報酬系を動かすような)ができれば、共感のハードルは下がるかもしれない。難しい。冷房が効きすぎて寒い。集中できない。(40代女性)

◎ありがとうございました！！大変勉強になりました。(40代女性)

◎人権に関するフォーラムでしか味わうことのできない思いを今回のフォーラムでも強く感じ、あたたかい思いにつつまれました。このような営みがあるからこそ、自分の心の中にある弱い心を見つめ人を差別しない自分へと着実に近づいていることを感じます。

そして、思いを自分の学校の生徒たちにも広げていくことそれが自分の使命だと思います。いや使命というより、むしろライフワークと言ってもいいと思います。(40代男性)

◎今回はじめての参加でしたが、人と人とのつながり、自分らしく生きること、自分の言いたいことが言えること。また、自分の居場所があることなど、人とのつながりによって生まれてくることだと思いました。次回も参加したいです。(40代女性)

◎毎回A先生の心にしみる語りにはっこりした時間を過ごさせていただいています。今年は教え子さん3人(「部落の心を伝えたい」ビデオのあの3人さん、ずいぶん大人になられて)のパネラーさん。仕事・家庭をもつ中での思いをしっかりと聞くことができました。

特に多くは語られなかったけれども、「子どもにいつ何を語るのか」ということ。きっと自分の親も同じような思いで過ごしたのだらうと感じたことだらうし、世の中の状況が大きく変わっていく中でどのように語っていくのか、そして、お子様方がどのように受けとめて成長していられるのか、その行く末を見守っていききたいなあという思いにもなりました。来年も楽しみにしています。

毎年会場の空調がききすぎて寒い思いをしています。今年もどなたかが言ってくれたのか、途中で過ごしやすくなりましたが…。(50代女性)

◎これからの鶴尾力がどうなるのかどうすべきなのか常に自問自答し続けます。ここでもらったものは必ず地域に子どもに自分にかえさないといけないなあと感じています。

同和教育は、すべての人を幸せにします。本当にありがとうございました。(50代男性)

◎素晴らしい取組みだと思います。ですが、何度に設定していたのでしょうか。寒くて集中して聞くことができませんでした。二度ほどスタッフの方にお問い合わせしました。(50代女性)

◎初めて参加しました。パネリストの方、フロアからの熱い思い、語り到大変感動しました。自分の思い、考えを語らないかぎり、他人の教育はできませんね。

やはり、さまざまな語り合いを行うことにより、自分自身で正しい認識ができると思います。

来年も是非参加します。今日はありがとうございました。(50代男性)

◎とても内容が深くためになるフォーラムでした。(50代男性)

◎聞いてくれる人がいるから安心して話せる。それが一番大切だと再認識できた。(50代男性)

◎高校教員で9年ぶりに鳴門に戻ってきました。人権の仕事もしておりましたので10年程前の地域フォーラムに参加したのを覚えております。

あれからずっと続いていることに感謝したいほどいいものです！これからも続けてください。(50代男性)

◎人を見くんだりおとし入れようとしたり、人間のドカドカしたものがなくなり明るい未来が広がる事を願っています。色々苦勞した事もあったと思いますが、明るく前向きなお話が聞けて良かったです。

障害者関係の仕事をしています。娘が知的障害があります。差別問題色々ありますが、前向きに取り組んでいけたらと改めて感じました。(50代女性)

◎教師ばかりの会でないからなのか、人間味のある会がよかった。自分も教員経験ありの他の社会での仕事をする方が長い人生。

それだけに教師ばかりがそろう会より私には素敵なあたたかみのある会でした。(50代女性)

◎部落差別を本音で語りあったすばらしい研修会であった。今自分にできることは、何かを自問自答するものになった。

人権学習は、「自分のため」「子どもたちのため」にすることを改めて理解するものになった。(50代男性)

◎また帰って、つながりを大切にしつつ生きていきたいと思います。(50代男性)

◎とても楽しかったです。(共感の嵐でした)ありがとうございました。(50代女性)

◎様々な地域、立場の方々から本音で語ってくださった意見を聞け、心があたたまりました。(50代男性)

◎安心して自分の気持ちと言える日ごろ悩んでいることが言えるというのは、なんて素晴らしいのだと思った。やっぱり静かに聞いてくれる人がいるからだと思う。

夫婦の話が多かったのもよかったです。(50代男性)

◎A先生をはじめ、同級生だった3人のパネリストの方々の生の声を聴くことができ、時間が効率的で、充実したものであったと思います。「自分で自分を信じ、愛して、いきいき、キラキラした人生を送る」というフレーズに感化されました。私も少しでも3人のようにキラキラした人間になりたいと感じています。ありがとうございました。(50代女性)

◎もっとポイントを絞った話し合いになるといいなあと感じた。若い人が多かったので、どうやって結婚差別を乗り越えて今に至ったかなど詳しくお聞きしたかった。最後にBさんが少し話してくれたこと(奥さんの御両親が大切にしてくれてる)等…。そして、それがなぜそうなのか御両親(60代くらいの方だろうから)がどんな教育やどんな考え方をされて育ってきたからなのかが知りたかった。(50代女性)

◎自分を語るというのは大変勇気のいることだと思いますが、それぞれの方が人とのつながりを信じているから本音で語れるのだなと感じました。また、その深い人間愛に敬意を表したいと思います。

最近思うことですが、互いに全てを分かり合うというのは無理があるなというものです。ただ、分かり合えなくても思いをわかろうとする、聴くこと、受けとめ、認めることはできると思うし、関わりを大切にしながら、それを大切にする事がつながりのスタートであるなど、今日改めて確認できたと思います。本日はありがとうございました。(50代男性)

◎今日もすばらしい会でした。A先生パネラーの方たち本当にありがとうございました。(60代男性)

◎「時代の変化の中で、昔のような語りはできない」ということが言われていたが、そんなに簡単に言ってしまうといいのかなと思います。やっぱり「語り合う学習は原点だ」と思うので、是非まずは徳島の地で「語り合う学習のすごさを継続して実践して行ってほしい」と思います。三豊市でも「語り合う学習」をする実践する機会を増やしていきたい。

そして、「語り合いの面で徳島の人たちとも連帯していきたい」と考えています。(60代男性)

◎3人のパネラーの方が、本当に心から語り合える仲間だなあと感じました。コミュニケーションが苦手な世の中において素晴らしいことだと思います。中学時代の体験が人生を豊かにしたということがわかりました。この取り組みが教育現場に普及すればいいですね。期待しています。(60代女性)

◎まだまだと自分の無力を実感します。年齢がいくにつれ、立場や思いや行動のしかたが変わりますが、他人の理解や他人を知ってそして、受け入れるという事のむずかしさを痛感する毎日ですが、人生終わりのない修業というかいうか学びの場だと思って自分の甘さと向き合っていきます。

私の父も土をつくり、土に向き合いひたむきに野菜づくりにあたり私を育ててくれました。父の誠実な姿は私の誇りです。

B君の姿がお嬢さんたちの誇り、生きていく力のもとになると思います。

C君の働く環境、今の社会そのもののきびしさがうずまいているそういう中で折れずに生きてまわりを変えようとするパワーをこれからも私は見習っていく。

D君の前途は少し見えるように思いますが、どんな局面があっても切り開いてつき進んでいってくれると信じています。「輝いているか」「今、自分にできること」を大切に私も生きていきます。(60代女性)

◎A先生 38年間に渡る人権教育を第一線で活躍している先生の話される言葉一つ一つにすごい重みがあって感動し、心が震えました。部落差別しない、させない徹底していきたい。

Bさん バイタリティーいっぱい素晴らしい生き方をされているBさんに感服、A先生のお話からBさんの奥様に心洗われました。エールを送ります。

Cさん 人を大事にしないで 人の **background** を大切にす明日につながる仕事ができありがたい人とのつながり

D先生 全体学習のお陰で今がある(自分自身を作っている教員になった)自分がきらきらした人生を！自問自答 陸上 勉強 全体学習、仲間づくり 今できることを一生懸命やる人と人とのつながり

A先生、パネリスト、フロアからの中味の濃い心にしみるお話に大きな感動を覚え、自分のできる事からしていきたいという強い思いにかられました。行動に移していきたいです。

A先生はすごい方だと尊敬していましたが、県内は勿論県外の人達にも長年に渡って関わってこられて、いい方向に変えていかれたお力は本当に尊敬に値します。本当にありがとうございました。

教員OBのTF(現在75才)です。A先生が瀬戸中(板野中は勿論)で取り組まれた内容が今も鮮烈に残っています。(70代女性)

◎同和教育・全体学習とは縁のなかった世代です。障害者を支援する職業に就き退職後も地域の福祉活動に携わっています。障害者支援の仕事では命と向き合う中で人権=命として係わっていましたので同和差別などを超えた意識で人権を感じておりました。

今日改めて同和教育の人権問題に接しましたが、私としては福祉の基本理念であります「個人が尊厳を持ってその人らしい生活を地域の中で暮らす」という尊厳とその人らしい生活をもっと教育の中で教えていく必要があると思います。特に命の大切さが最優先の教育を！(70代男性)

◎Bさんの最後のお話、そうそうと自分に言い聞かせました。(70代女性)